MyBiT 令和４年度 活動報告書

2023.3.28

宮城県行動デザインチーム MyBiT

目　次

1. ナッジ・デザイン思考・EBPMとは

2. MyBiT概要・設立経緯・活動理念

3. 令和４年度の具体的な活動

4. 今後の展開予定

5. サポーター&メンバーのメッセージ

※MyBiT （マイビット）＝ Miyagi Behavioral insight design Team（宮城県行動デザインチーム）

１.ナッジ・デザイン思考・EBPMとは

1－1－1　ナッジとは

- **人間らしい現実的な意思決定の癖（＝バイアス）を考慮して、人々の選択肢を奪うことなく環境を整えることで、本人や社会にとって望ましい行動になるように、そっと後押しする方法**
- **ノーベル経済学賞（2017）受賞の経済学者リチャード・セイラーが提唱**

ナッジの事例

損失回避性	損失を極端に嫌う性質のことで、利得を得た満足感よりも、同程度の損失が生じたときの不満感の方が大きく感じられる
フレーミング効果	「1%の確率で〇〇が生じる」と「99%の確率で〇〇は生じない」のように、同じ内容でも表現次第で感じ方が異なる



パターン　A
利得フレームメッセージ



パターン　B
損失フレームメッセージ

- がん検査キット利用促進のメッセージを工夫した八王子市の取組
- 今年利用すると来年もキットが送付される権利を得られる表現（左）と今年利用しないと来年は権利が失われる表現（右）の２種類のハガキを1700名にランダム送付
- 右の損失強調ハガキが送付されたグループの方が、**キット利用率は7.2%ポイント高かった**

出所：日本版ナッジ・ユニットホームページ（https://www.env.go.jp/earth/ondanka/nudge.html）

1－1－2　ナッジとは

現状維持バイアス	現状変更に大きな損失を感じる傾向（損失回避性）や、現在保有している財の価値を高く見積もる傾向（保有効果）のために、現状の変更よりも維持を好む傾向
デフォルト効果	人間の意思決定や選択が最初に設定されている初期値（デフォルト）に影響される傾向

旧

氏名	宿直明け休暇の取得
	□ する
	□ する

新

氏名	宿直明け休暇の取得
	□ しない
	□ しない

- 休暇取得促進のため申請書を改良した中部管区・関東管区警察局の取組

  - 従前の申請書（上）は休暇取得しない選択が初期設定（チェック必要）
    → 新しい申請書（下）は**休暇取得が初期設定（チェックが不要）**
  - 変更により休暇取得の心理的負荷が低下し、宿直明けの休暇取得者数や年間平均取得日数が増加

- 2010年、イギリスがナッジ推進組織（ナッジ・ユニット）を設置したのを皮切りに、アメリカのオバマ政権も積極的に導入するなど、高い費用対効果に注目し、世界に400以上のナッジ・ユニットが存在

- 国内においても、市民サービス向上や業務効率化のために、分野を問わずナッジを活用する自治体が増えており、全国に**14の自治体ナッジユニットが存在**（p40参照）。政府では、主に環境省がナッジを推進中

  - 岡山県、つくば市…政策推進部局が、ナッジの活用に関する各所属からの相談に応じている
  - 北海道…有志の職員10名程度が、本務と並行し業務として活動。主任研修ではナッジが必修化

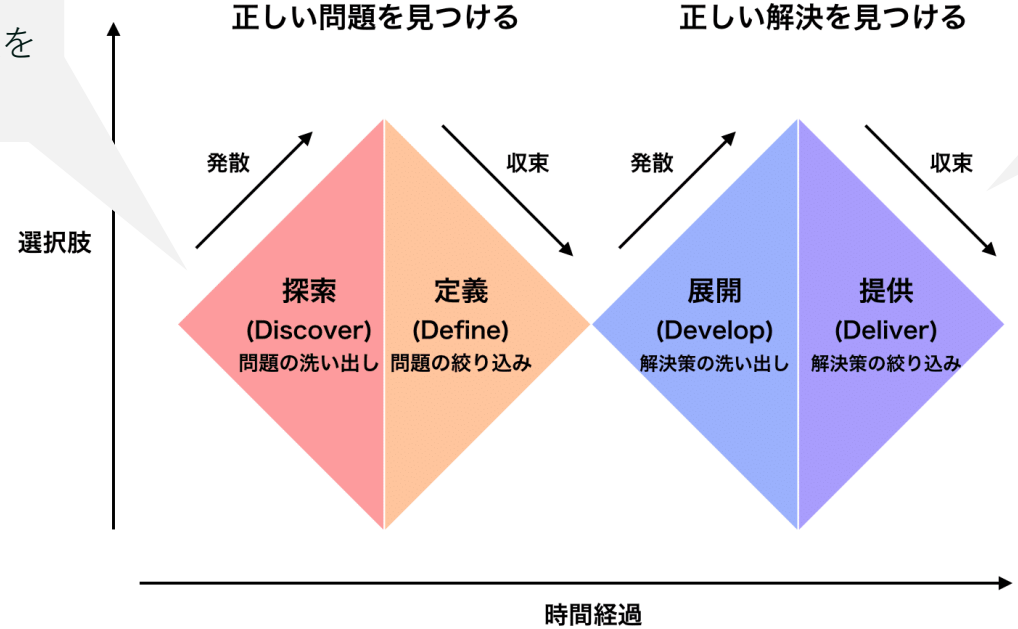
出所：日本版ナッジ・ユニットホームページ（https://www.env.go.jp/earth/ondanka/nudge.html）

１－２　デザイン思考とは

- **供給者（サプライサイド）視点ではなく、利用者（ユーザー）視点で仮説検証を繰り返し、利用者中心のサービスを提供していく方法論**
- **政府では、DXや行政サービス改革の基本思想として位置づけ**

県民ニーズや課題を分析して
ボトルネックとなっている問題を
正確に特定できているか？

「ダブルダイヤモンド・プロセス」 への転換



本当に効果的な解決方法に
なっているか？

仮説検証・効果検証

行政の無謬性に囚われず
正確な効果検証ができているか？

- 海外では政府に専門機関を設置し公共政策の設計に活用している国も多い。国内でもR4.3に経産省中心でJAPAN-Dプロジェクト発足
- 「デザイン」という言葉は元々「見た目」「使いやすさ」という意味よりも広く、「設計」を意味する → **政策・行政サービスの設計**

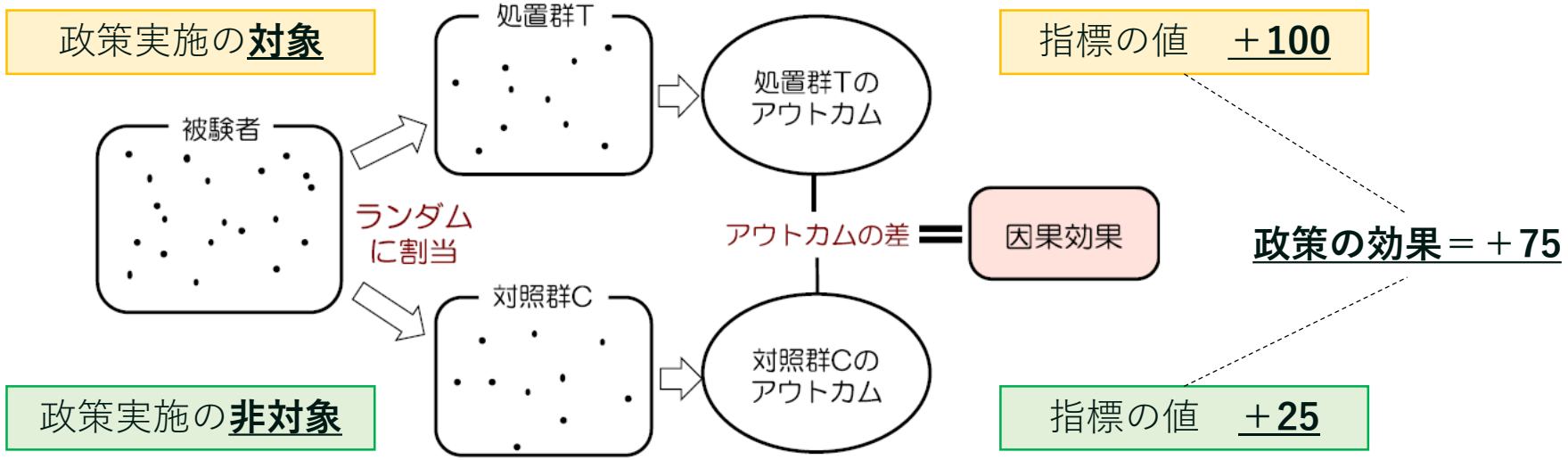
参考：デジタル・ガバメント推進方針（2017年 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部・ 官民データ活用推進戦略会議決定）

1－3　EBPM（エビデンス・ベースド・ポリシー・メーキング）とは

- **「ある政策を実施したから期待した効果が出た」という因果関係を示す根拠（＝レベルの高いエビデンス）を活用しながら、より妥当な手段を選択していこう、という考え方（≠データ活用）**
- **代表的検証手法は、対象者をランダムに分け、政策による因果効果を確認するランダム化比較試験（RCT）**

※ 事業と効果の因果関係を整理したロジックモデルについては、P.14（2-5）参照

ランダム化比較試験（RCT）



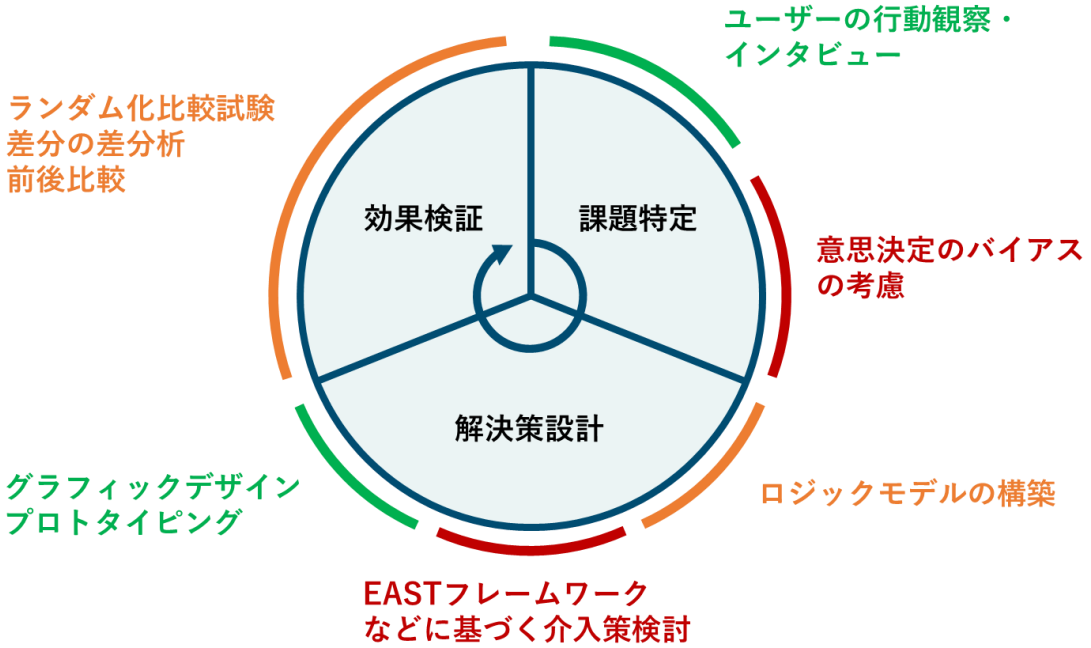
- EBPMとは何かについては論者によって幅があり、確立した定義はないが、「より良い政策の実現を目指す」という目的は共通
- すべての政策でRCTを行うのは現実的ではない。他にも差分の差法（DID）や前後比較などの手法もあり、各政策の影響力や対象範囲、予算規模を勘案し、どの程度の厳密性が必要かも踏まえ、最適な手法を選択する
- 「政策の打率は思っているより低い」ことを念頭に、**検証マインドを持つことが重要。「効果がなかった」という結果もエビデンス**

出所：小林庸平「政策効果分析の潮流とランダム化比較実験を用いたアンケート催促効果の推定」（2014年）

１－４　ナッジ・デザイン思考・EBPMの関係性

- **「ナッジ」の設計過程で「デザイン思考」を取り入れることで、より県民に寄り添った政策を実現**
- **「ナッジ」の推進が「アジャイル文化」や「EBPM」のきっかけづくりに**

ナッジ理論・デザイン思考・EBPMの関係性



令和４年８月２３日　日本経済新聞　やさしい経済学
「ナッジ」の政策活用⑩　大阪大学特任准教授・佐々木周作

効果を事前確認する小規模テストに、ランダム化比較試験（RCT）が採用されるケースが増えてきました。RCTは、（略）エビデンスの質は高いのですが、試行期間中であっても、介入を提供する・しないという違いを設けるため、自治体現場の抵抗が強かったようです。

一方、効果の確認後はナッジを全体に提供するなど、公平性や倫理的懸念に配慮する手続きも整備されています。（略）**ナッジの多くは情報提供の工夫といったソフトな手法です。規制・財政的手法と違い、各現場の裁量でRCTなどの試行的な取り組みに挑戦しやすい**のです。

（略）ナッジの政策活用では、政策側が市民に働きかけるものが大半ですが、政策担当者が誤った推薦をするリスクもあります。**小規模テストから始め、実際の選択行動や声を踏まえながら改良を重ねる姿勢**を持ち、そのための体制を整えることが重要でしょう。

出所：令和４年８月２３日　日本経済新聞　やさしい経済学

2 .MyBiT概要・設立経緯・活動理念

２－１　MyBiTの概要

- **働き方改革、そして職員のパラレルワーク（庁内複業）推進 の一環として**
  ナッジ・デザイン思考・EBPMを推進する 宮城県行動デザインチーム MyBiT を設立

※MyBiT （マイビット）＝ Miyagi Behavioral insight design Team

設　　立：令和**4**年**7**月

人　　数：**6**人（設立当初）→ **２０**人（令和**5**年**3**月現在）※有志による公式業務

活動実績：
- 庁内研修　WEB研修会×**3**回（のべ約**７８０**人参加）、設立準備メンバー向け研修×**1**回、企画部内職員研修×**1**回（約**５０**人参加）
- 市町村研修　WEB研修会×**1**回（約**３００**人参加）、グループワーク研修×**1**回（約**３０**人参加）
- 伴走支援
  ①中小企業等向けデジタル化補助金チラシ改善プロジェクト（産業デジタル推進課）
  ②県外避難者向け意向確認書改善プロジェクト（復興支援・伝承課）
  ③働き方改革アンケート改善プロジェクト（行政経営推進課）
  ④職員マイナンバーカード取得促進プロジェクト（職員厚生課・市町村課）
  ⑤職場換気奨励プロジェクト（東部保健福祉事務所登米地域事務所）
- 外部連携　岡山県、つくば市、県内市町村からの事例相談・研修依頼
- 情報発信　時事通信iJAMP記事、PolicyGarage研究会発表、提案募集ニュースレター掲載他

２－２　チーム立ち上げの流れ

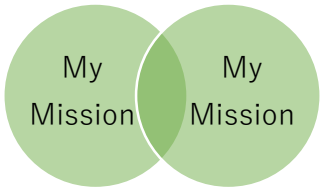
- **My Mission ∩ My Mission → My「BiT's」Mission への道筋**

STEP1　県の政策形成や働き方に関する**課題認識を共有・分析・仮説化**

STEP2　それを元に**ＭＶＶ（ミッション・ビジョン・バリュー）**を明確化

STEP3　それをベースに**ロジックモデル**を作成して具体的活動を決定

※並行して庁内向けナッジ研修を随時開催



２－３　課題共有・分析・仮説化

- **設立準備メンバー６人が現状の政策形成方法や働き方に関する課題分析を行い、以下の仮説を立案**

  「ナッジ（デザイン思考・EBPM）ユニットによる庁内複業が、有効な解決手段になるのではないか」

主な課題認識

● 人口減少・少子高齢化が進み、複雑化・多様化、変化が速いVUCA（予測不能）の時代では、

・「行政の無謬性」（＝失敗はあり得ない）、「ビルド＆ビルド」（＝撤退しない）から脱却し
費用対効果の高い政策への注力が必要

・「エピソード・ベースド」ではなく**「エビデンス・ベースド」のEBPM**が必要

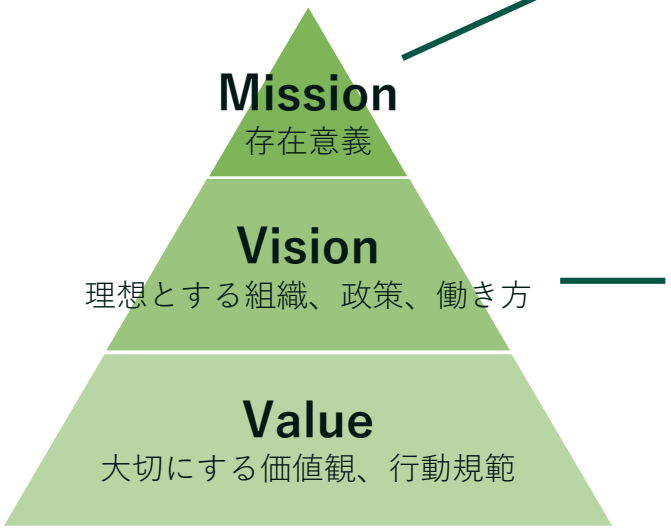
● 供給者目線ではなく、関係者を巻き込んだ**ユーザー目線の政策形成**が必要

● 意欲ある職員や問題意識のある職員、社会貢献意識のある職員は多いが、そうした職員の能力や意欲を活かしきれていないのはもったいない

２－４－１　MyBiTのＭＶＶ

- **活動理念となるＭＶＶ（ミッション・ビジョン・バリュー）を整理**

MyBiTのMVV



- 多様な人材や組織と協働し、ナッジやデザイン思考の活用により、 宮城県における公共サービスの向上を推進する**【地域への貢献】**
- 小さく始め改良を重ねるアジャイル文化の普及と、EBPMのきっかけづくり**【組織への貢献】**
- 政策効果の見える化により、仕事のやりがいやワクワク感を庁内にひろげる**【職員への貢献】**

- ナッジ、デザイン思考、EBPMにより、真に効果のある政策を実施する組織
- 他の自治体や、研究機関、民間などの外部組織とのつながりを深め、共に地域課題を解決する組織
- 所属や役職にとらわれず、得意分野を活かして、自分らしく、やりがいを持って働くことができ、意義のある仕事を通じて自己成長できる組織

- **本質志向**　～県民起点で考える～
- **人間中心**　～現実的な「ありのままの人間像」をもとに考える～
- **トライ＆エラー**　～長期的成果を見据え、失敗を評価する～
- **スピード**　～素早く行動しながら変化に対応する～
- **協働**　～自発的に学び、仲間と共に成長する～

参考：Managing in the Next Society（Peter Ferdinand Drucker）

２－４－２　MyBiTのロゴ

- **ミッション・ビジョンを反映したロゴを作成**



ミッション

- **多様な人材や組織と協働**
  …図形上の交錯する線で表現
- **公共サービス向上・小さく始め改良を重ねる・ワクワク感**
  …１段ずつ積み上げる・階段をのぼるイメージ

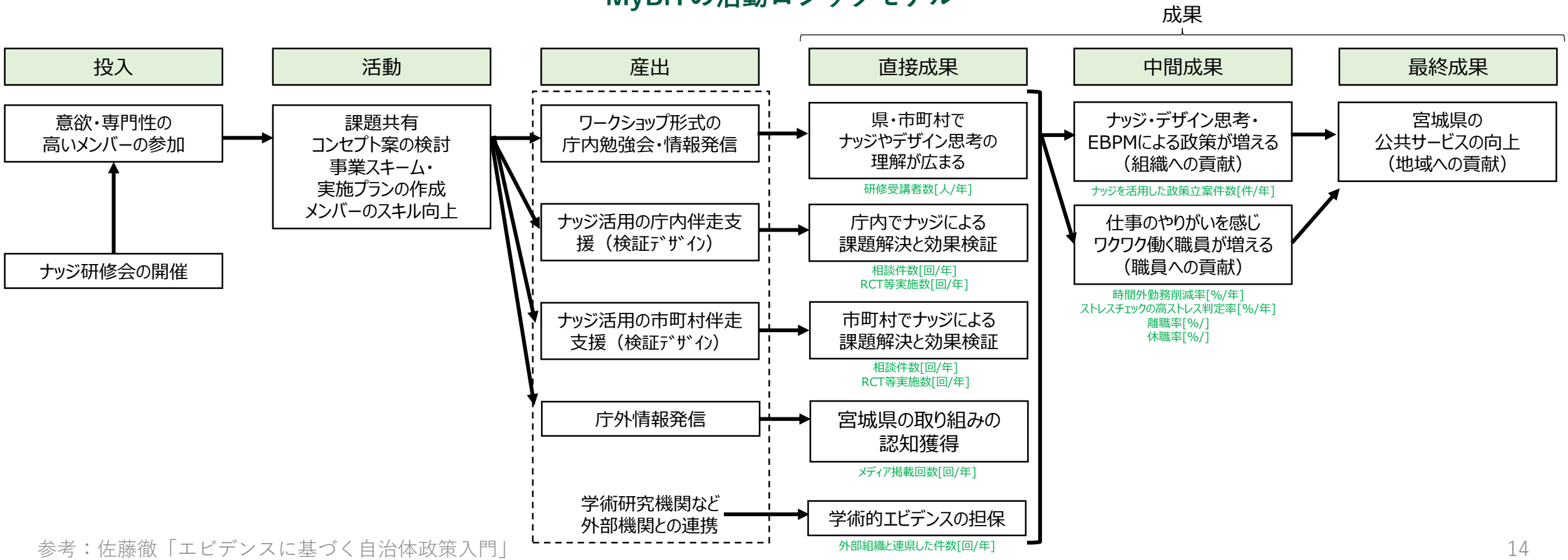
ビジョン

- **ナッジ**　…ロゴ上にNが見える
- **デザイン思考**　…ダブルダイヤモンド
- **EBPM**　…ロゴ上にE・B・P・Mが見える
- **地域課題を解決・自己成長できる組織**　…階段でSTEP UPを表現

2－5　MyBiTのロジックモデル

- **資源投入（インプット）から最終成果（インパクト）までの論理的つながり（＝事業と効果の因果関係）を可視化（EBPMの一手法）し、活動を段階ごとに検証**

MyBiTの活動ロジックモデル



参考：佐藤徹「エビデンスに基づく自治体政策入門」

２－６　MyBiTの普及プロセスモデル

- **普及プロセスモデルに応じた活動を展開、現在は習得期～実践期へ移行中**



ボトルネック例
- 知る機会がない
- 理解できない
- 意欲がない
- 拒否反応

① 興味・関心の喚起
（研修会・情報発信）

ボトルネック例
- イメージできない
- 職場理解不足
- 失敗への不安
- 倫理的課題

② 先導事例の実施による課題解決と効果検証
（伴走支援の試行）

ボトルネック例
- 事例が少ない
- 組織構造上の課題
- 媒体不足

③ 支援体制の構築と効果の見える化
（ネットワーク構築・評価）

参考：自治体ナッジシェア「北海道行動デザインチーム令和３年度事業報告書」（https://nudge-share.jp/a476ec17a6f2411590047e388616e4bd）

２－７　研修会開催

- **ナッジ・（グラフィック）デザイン・EBPMについて研修会を開催、それぞれの基礎を全庁的に学習**
  （デザイン思考については、DX推進職員研修において実施）

開催日	研修名	講師	参加職員
2022.6.15	実践ナッジ講座	大阪大学・佐々木周作氏、財務省・津田広和氏（PolicyGarage）	**300**人
2022.8.30	グラフィックデザイン講座	デジタル庁・志水新氏（PolicyGarage）	**330**人
2022.10.11	COM-Bモデル研修	環境省・加藤優里氏（PolicyGarage）	設立準備T
2022.11.1	EBPM基礎講座	岡山県・安藤如照氏（PolicyGarage）	**150**人
2022.11.29	市町村行政ナッジ勉強会	宮城県・伊豆勇紀（設立準備メンバー・ PolicyGarage ）	**300**人
2023.1.24	市町村行政ナッジ勉強会（GW編）	宮城県・伊豆勇紀（設立準備メンバー・ PolicyGarage ）	**30**人
2023.1.30	ナッジからはじめるEBPM	宮城県・伊豆勇紀（設立準備メンバー・ PolicyGarage ）	**50**人


佐々木氏


津田氏


志水氏


加藤氏


安藤氏

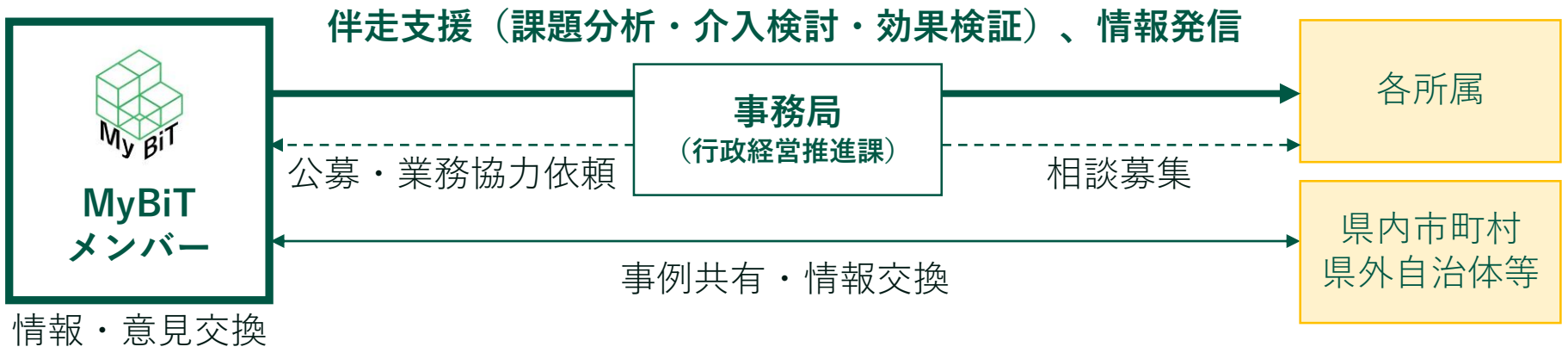

伊豆主事

出所：総務省統計局ホームページ（https://www.stat.go.jp/dstart/point/lecture/08.html）、PolicyGarage ホームページ（https://policygarage.or.jp/）

２－８　正式チーム発足

- **設立準備メンバーの所属案件（補助金チラシ改善）で試行的にナッジを活用し伴走支援**（効果未検証）
- **R4.11全庁から有志を募集、改めて「My Mission」と「MyBiT's Mission」を共有し、本格活動を開始**

R4の基本事業スキーム



- 行政経営推進課長からの依頼に対応する形で、外部機関とも連携しながらナッジ相談案件に**業務として伴走支援を実施**
  また、庁内・市町村へ普及するための勉強会開催や情報発信を行う（R4はMyBiTメンバー所属案件中心に伴走支援）
- 年度内は試行的に月15時間・１日45分程度の活動とし、次年度以降は改めて検討（所属には活動報告書を提出）

２－９　働き方改革における位置づけ

- **新たな働き方改革推進ロードマップに活動を位置づけ**
- **Excelカイゼン隊とともに、庁内複業チームとして公共サービスの向上のために活動**

庁内複業の意義

所属や役職にとらわれず、得意分野を活かして、自分らしく、やりがいを持って働くことができ、意義のある仕事を通して自己成長できる組織づくりに寄与

Excelカイゼン隊

マクロや関数の有効活用により事務作業を効率化し、業務カイゼンの意識を庁内にひろげることで、高付加価値業務に注力する時間を創出

効率化の加速

宮城県行動デザインチーム MyBiT

ナッジやデザイン思考を活用し、政策効果を高め、アジャイル文化の普及とEBPMのきっかけづくり

政策効果の向上

公共サービスの向上

※関連事業：みやぎのINAKA応援し隊（農山漁村なりわい課）
　勤務時間中の複業が難しい場合や、他の得意・専門分野を活かしたい場合には、庁外複業により地域、組織へ貢献

2－10　伴走支援のイメージ

- **ナッジはあくまで課題解決の一手段であり、最初からナッジありきではなく、課題分析を丁寧に行った上で解決策の洗い出しと絞り込みを実施**
- **「ダブルダイヤモンド」に沿った９つのプロセスにより、業務を所管する所属の職員と一緒に検討**

９つのプロセス

Step **1**　「**ペルソナ**」を描く
Step **2**　「**行動プロセスマップ**」で現状分析
Step **3**　「**COM-Bモデル**」を活用して、**阻害要因（摩擦）**と**促進要因（燃料）**を検討**【探索】**
Step **4**　範囲（対象・人数）×影響（効果・上流）で優先課題を絞る**【定義】**
Step **5**　優先課題に対して「**EAST**」で解決策を検討**【展開】**
Step **6**　実現可能性×影響で解決策を絞る**【提供】**
Step **7**　５Ｗ１Ｈで解決策の詳細を決める
Step **8**　小規模テスト・効果検証
Step **9**　拡大・継続・廃止を検討

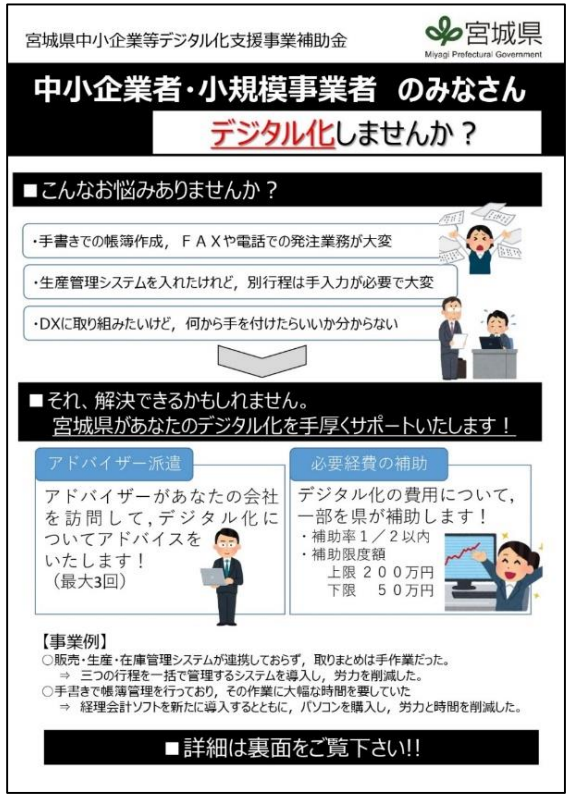
※直線的なプロセスではなく、プロトタイピング等の結果に応じて前後のステップを往復する

３.令和４年度の具体的な活動

３－１　デジタル化補助金チラシの改善

- **中小企業者等デジタル化支援事業補助金チラシの改善プロジェクトを試行実施**（期間：約半月）
- **有利な補助金に気づかない、手続きが煩雑に見えて申請に至らない事業者も、①DXの必要性を認識し、②補助金の情報にたどり着きやすいような情報提供の仕方を、ナッジに基づき改善**

旧



新



- 「実際に利用した企業の声」や「行動プロセスマップ」を元に**阻害要因（摩擦）**と**促進要因（燃料）**を特定し、フレームワーク「**EAST**」(Easy,Attractive,Social,Timely)で解決策を検討しました。
- 認知負荷を下げるフォントサイズ・スタイルや読み手主語への文言変換（**Easy**）、メリットを強調するメッセージ（**Attractive**）を加えて改善しました。
- また、HP掲載時もPDFのクリック開封が摩擦になるため、そのまま画像で見えるよう工夫（**Easy**）しました。
- **以前より補助金の枠が早く埋まり、内容への問い合わせも減った**ため、担当者からは好評でした！



産業デジタル推進課　小幡主事
（設立準備メンバー）

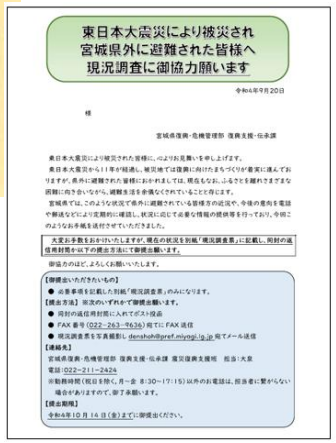
出所：宮城県産業デジタル推進課 R4中小企業等デジタル化支援事業（デジタル化導入補助）（https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sangyod/digital-shien.html）

３－２　県外避難者向け意向確認書の改善

- **東日本大震災により宮城県から他県に避難中の方々に対する帰郷意向調査の改善を試行実施**（期間：４か月）
- **回答率向上のため、ナッジに基づき「封筒を目立たせる」「動作指示の明確化」等により改善**

旧





新





- 担当者と相談の上、具体的な対象となる「ペルソナ」の設定や「行動プロセスマップ」を作成した上で、**阻害要因（摩擦）**と**促進要因（燃料）**を特定し、フレームワーク「**EAST**」(Easy,Attractive,Social,Timely)で解決策を検討しました。
- 最初に目に触れる封筒について、県からのお知らせであることを強調する（**Social**）などで目立たせたり（**Attractive**）、添書の文字を最小限に留める、アンケートの選択肢を減らすなど（**Easy**）の改善をしました。
- **送付物の目的（動作指示等）がはっきりすることで、デザインの方向性も明確になり、説明しやすくなった**ため、担当者からは好評でした。



統計課　大平主事
（設立準備メンバー）

３－３－１　働き方改革アンケートの改善

- **目標は、働き方改革について興味・関心がある職員をターゲットに、課題解決の具体的なアイディアや意見の回答率を向上させること**

アンケート回答の行動プロセスマップ

①電子掲示板を開く → ②件名を読む → ③記事を見つける → ④記事をクリック → ⑤記事内容を読む → ⑥回答しようと思う → ⑦申請URLをクリック → ⑧設問を読む → ⑨各設問に回答する → ⑩送信ボタンを押す

①	摩擦	・情報量が多すぎる（ほかの通知に埋もれる）
	燃料	・毎朝、開く　・見たい記事がある　・見ないといけないものだと思っている　・時間に余裕がある　・集中しづらい時間帯に投稿
②	摩擦	**・件名が長い**　・件名を丁寧に確認する時間がない ・興味関心のあるものだけ詳細確認
	燃料	・面白そうな記事を探したい　・すべて開封するのが習慣 ・時間に余裕がある　**・件名が面白そう**
③	摩擦	・他の記事に埋もれる　**・働き方改革アンケートだと気づかない**
	燃料	**・件名がわかりやすい**　・詳細説明は別に記載し、まずはアクセス
④	摩擦	・自分に関係ないと思われる　・締切まで期間があると後回し
	燃料	・件名から「自分にも関係ある内容」だとわかる ・興味を惹かれる　・即回答開始できるタイミングで掲示する
⑤	摩擦	**・文字が小さい**　**・文章が長い**　⇒重要情報が埋もれる＆時間がない
	燃料	**・読みやすい**　・余裕がある　・協力してあげなきゃ！と思える内容 ・面白いという口コミ　・楽しい？熱が伝わる？エピソードがある

⑥	摩擦	**・目的がわかりにくい**　**・何の役に立つかわからない** ・回答する時間がない
	燃料	・物申したい　**・回答が施策や自分の仕事に反映されているとわかる** ・他の人の回答率がわかる　・課内（班内）からの呼びかけがある ・他の人の回答に共感する
⑦	摩擦	・クリックしてもブラウザにつながらない（テキストのまま） **・記事が長すぎて、URLにたどり着くのに時間がかかる**
	燃料	**・電子申請にすぐアクセスできる**
⑧	摩擦	・設問数が多すぎて読む気にならない　・読んでいる暇がない
	燃料	・じっくり読む時間がある　・わかりやすく要点を絞った設問
⑨	摩擦	・自由記述が多すぎて面倒・設問数が多すぎる　・ちょうどよい選択肢がない　・回答途中で電話がかかってくる、他の業務が入る
	燃料	・選択式　・直感的に回答できそうだ　・所要時間が書いてある ・短時間・書きたいことがある　・余裕がある
⑩	摩擦	・送信ボタンがわからない　・押し忘れる　・エラーが発生
	燃料	・電子申請の操作説明がある　・こまめな一時保存を推奨する

３－３－２　働き方改革アンケートの改善

- **行動プロセス上の課題について、影響範囲、費用対効果から優先順位の高い項目を絞り込み、ナッジ設計のフレームワーク「EAST」（Easy, Attractive, Social, Timely）の観点から改善**

通常版

2023年03月02日(木)
行政経営推進課

働き方改革の取組に関するアンケートについて

職員の働き方改革について、今後の取組の検討に向けたアンケートを実施しますので、電子申請システムにより御回答くださいますようお願いします。
皆さまの声が課題解決につながりますので、ご意見やアイディアをお寄せください。

対象者：職員の皆さま（県立学校、県警本部を除く）に御協力をお願いします。
期　間：令和５年３月１日（水）から３月１０日（金）まで
所　要：１０分程度
電子申請URL：https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi2/uketsuke/form.do?id=1677567683797

今回は、メッセージによる回答率の差を検証するため、所属ごとに異なるメッセージで掲載しています（アンケート内容は全体共通）。
お問い合わせは下記担当までお願いします。

担当：働き方改革推進班
内線：２２０４
Mail：gyokei-kaikaku@pref.miyagi.lg.jp

行動プロセスの上流であり、影響範囲、費用対効果いずれの面でも**優先度が高い電子掲示板**に注目！

摩擦　・掲示板で埋もれる
・内容、目的の説明が分かりづらい
・回答の活用方法や効果が不明

※アンケートフォームについても設問内容を整理（全職員共通）

できる限りシンプルに、見逃しにくく（**Easy＆Attractive**）

過去の意見の活用をフィードバック（**Social & Attractive**）

ナッジ版

アンケート名や対象者など件名と重複する表現はなるべく削除（**Easy**）

所要時間を回答検討のタイミングで明示（**Timely**）

🙋働き方改革アンケート【職員の皆様へ】

今後の取組の検討に向けて、アイディアやご意見をお寄せください
（**3月10日（金）**まで）

▼　回答はこちらから（所要10分程度）　▼
https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi2/uketsuke/form.do?id=16775677

＼＼　**皆さまの声が課題解決につながります**　／／

昨年度の意見を参考に実現した主な事例

- ☑ 議事録作成システムのテキスト化の精度が悪い！　➡ 来年度からシステム変更を予定！
- ☑ Web会議を集中して実施できる場所がない！　➡ Web会議ブース５台、18階に専用会議室を設置！
- ☑ 在宅勤務で業務の再現性がない！　➡ リモートデスクトップ方式とクラウドＰＢＸの試行開始！
- ☑ Excelの悩みについて気軽に相談したい！　➡ Excelカイゼン隊が随時に相談受付開始！

今回は、メッセージによる回答率の差を検証するため、所属ごとに異なるメッセージで掲載しています（アンケート内容は全体共通）。
お問い合わせは下記担当までお願いします。

担当：働き方改革推進班
内線：２２０４
Mail：gyokei-kaikaku@pref.miyagi.lg.jp

倫理チェックリストに準拠したメッセージ

３－３－３　働き方改革アンケートの改善

- **回答率自体、自由意見回答率、一人当たり自由意見文字数について、ランダム化比較試験で効果検証**

介入の設定

介入内容	掲示板件名＋本文		投稿時間		
水準	ナッジ版 対照	×	8:30 11:50	＝	4 群

●ランダム化

部局、人数、本庁・地方機関別に層別化し、所属単位で介入をランダムに割付け

●解析

・全体回答率、自由意見回答率

掲示板の改善、投稿時間を説明変数にしたロジスティック回帰分析

・１人当たり自由意見文字数

Kruskal-Waliss検定 ⇒ Steel-Dwass検定による多重比較

※参考：掲示板の改善、投稿時間を説明変数にした重回帰分析で平均の文字数増減効果を評価

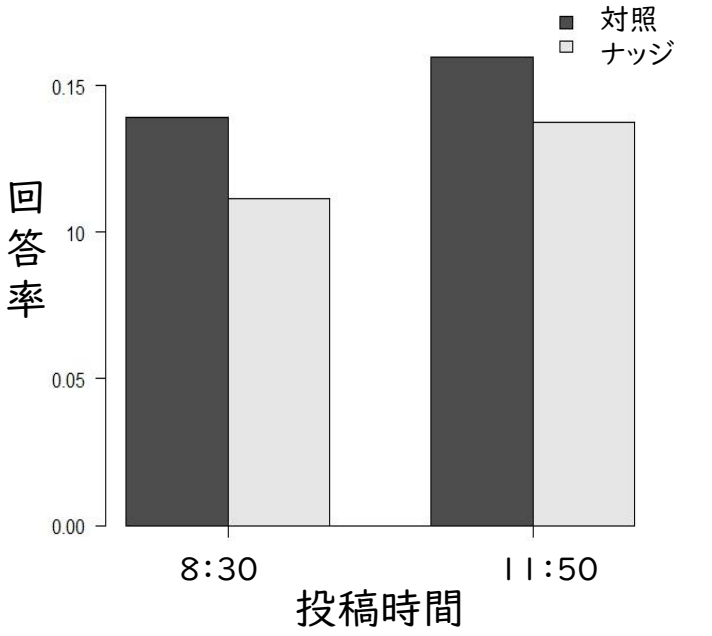
※統計解析には、R version 4.2.2（R Core Team, 2022）を用いた

出所：R Core Team (2022).
R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria. URL https://www.R-project.org/.

３－３－４　働き方改革アンケートの改善

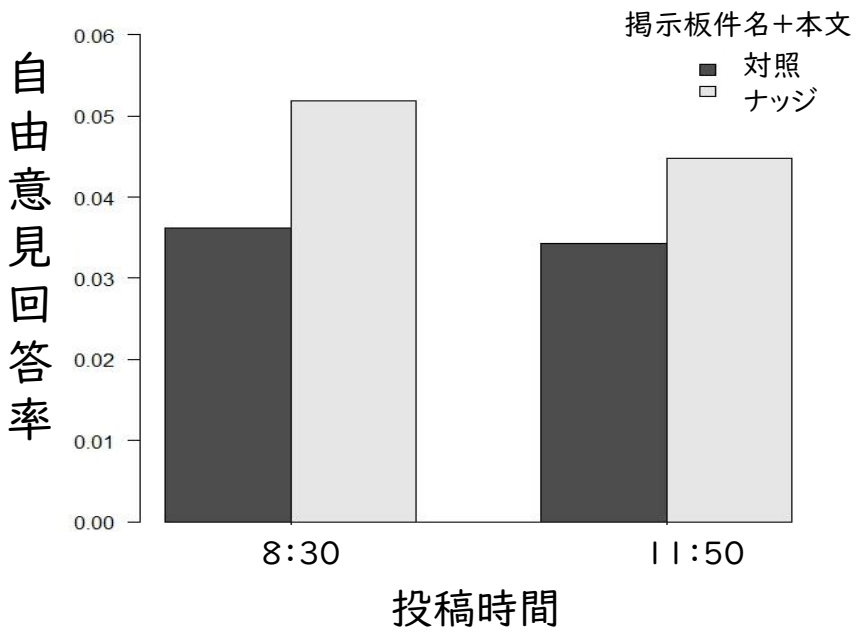
掲示板	投稿時間	サンプル数	回答数	回答率	自由意見数	自由意見回答率（/サンプル数）	自由意見回答率（/回答数）	一人当たり文字数（/自由意見回答数）
対照	8:30	1,328	185	13.9%	48	3.6%	25.9%	137.3
	11:50	1,253	200	16.0%	43	3.4%	21.5%	127.7
ナッジ版	8:30	1,312	146	11.1%	68	5.2%	46.6%	182.9
	11:50	1,229	169	13.8%	55	4.5%	32.5%	155.7
		5,122	700	13.7%	214	4.2%	30.6%	154.6

全体回答率



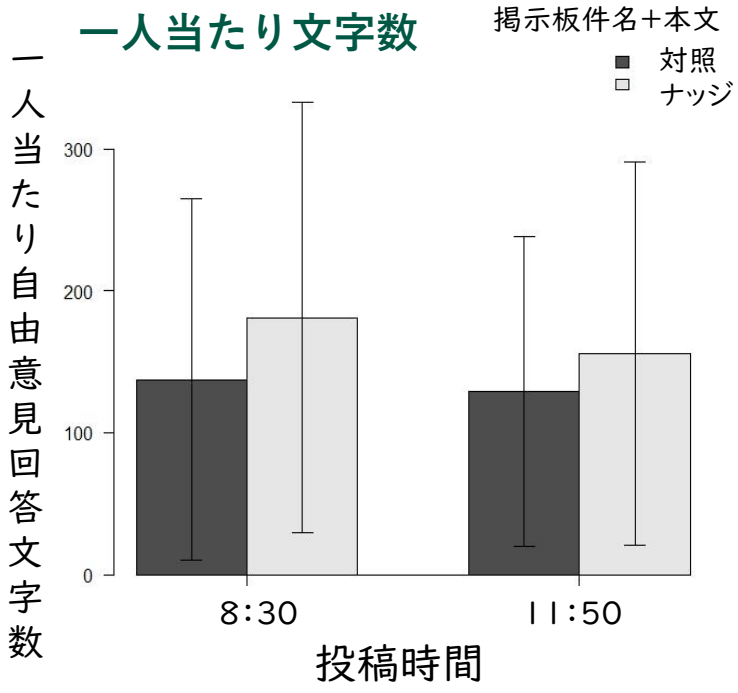
ナッジで約2.5pt減少　（1%水準で有意）
11：50の投稿で約2.3pt増加（5%水準で有意）

自由意見回答率



ナッジで約1.3pt増加（5%水準で有意）

一人当たり文字数

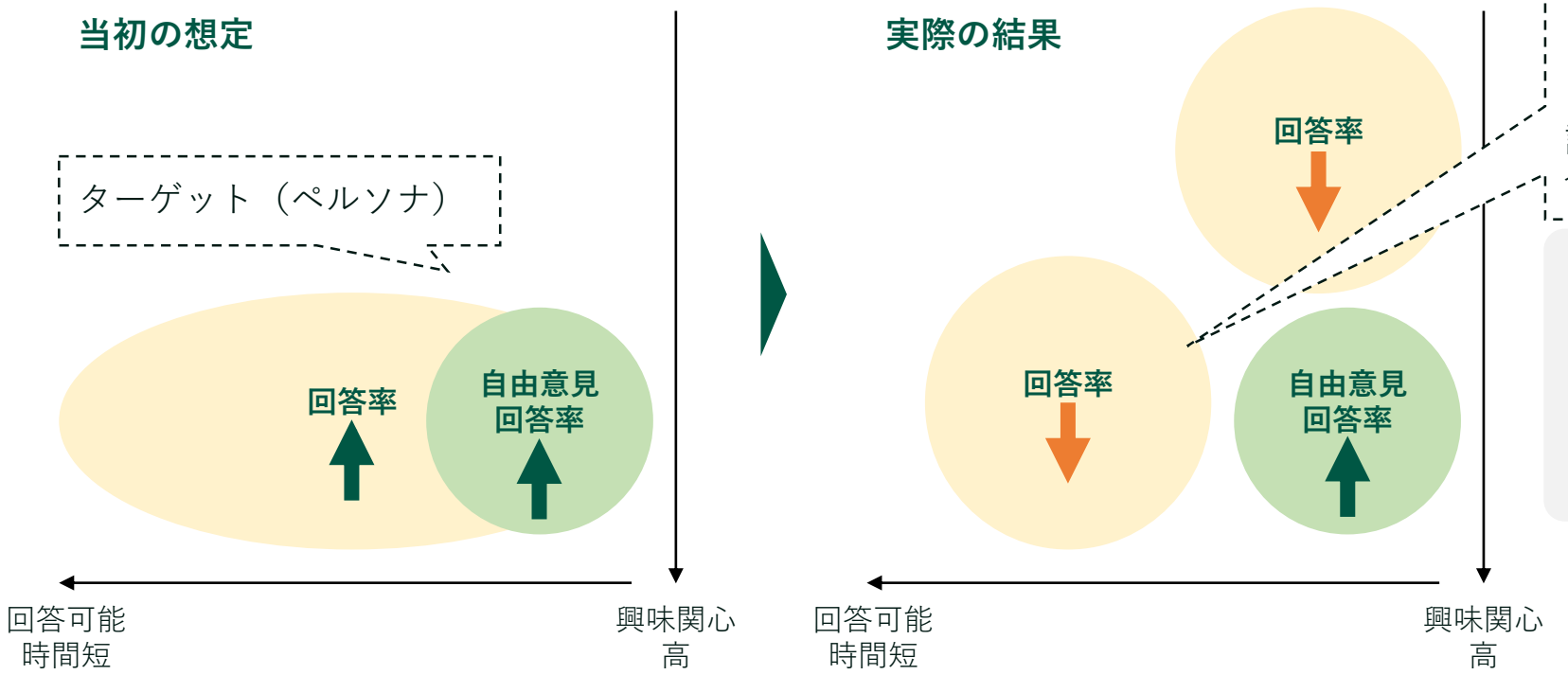


ナッジで平均約36字増加傾向（有意差なし）

３－３－５　働き方改革アンケートの改善

- **過去の回答の活用をフィードバックすることは、働き方改革への関心が高く、回答時間を確保できた職員に対しては訴求し、自由意見回答率の向上に有効だったと考察**
- **一方、ナッジ版の掲示板は一見してポップな印象であったことから、関心が薄い職員や関心が高くても回答時間が限られていた職員には、むしろ優先度が低いように伝わり、回答率が低下した可能性あり**

仮説と考察のイメージ



●逆効果になった可能性がある対象
・関心はあるが時間がない職員
・興味が薄い職員

訴求したい対象に応じたデザインとなるよう、今回の結果を踏まえて見直しを図る

効果検証により、全体の回答率は想定に反して下がるという貴重なデータが得られました。**「ストーリーや思い込みに基づく施策」に陥らないよう、「やって終わり」ではなく効果を検証して、改善につなげていくことが重要**だと感じました。

気仙沼地方振興事務所
櫻田技術主査



３－４－１　マイナンバーカード取得率向上

- **目標は「県職員のマイナンバーカード取得率を向上させること」**
- **未取得者３名にインタビューを行い、「必要だと思いつつも先延ばしにしていた職員」をペルソナとして設定した上で、申請までの行動プロセスマップを作成**



職員S

ペルソナ

- ３０代男性、仙台市在住、単身世帯、県職員（本庁）
- そろそろカードを取得しなければと考えているが、つい先延ばしに
- 取得手続きについて調べたことはないが、面倒そうだと感じている
- 役所に行くために年休を消化するのはもったいないと感じている
- マイナポイントの仕組みや、利用方法がわからず、あまり魅力的に感じていない

申請までの行動プロセスマップ

①電子掲示板で通知を確認

掲示板を見ようと思う → デスクネッツを開く → 電子掲示板を開く → 対象の件名をクリック → 内容を確認する → カードの取得を意図する

②オンライン申請する

取得方法を調べる → オンラインでしようと思う → 申請通知書を探す → スマホ等でサイトを開く → 写真を撮影する → 申請する

出所：塩尻市「はじめてのグラレコ 上級編」

３－４－２　マイナンバーカード取得率向上

- **インタビュー結果を踏まえて申請に至るまでの課題を洗い出し、「EAST」で介入策（解決策）を検討**
- **申請の必要性は認識している職員がペルソナだったため、取得メリットの訴求以外の介入策を主に検討**

摩擦と燃料に対する介入策

	着眼点	介入策検討
燃料	**①文字数が少なく簡潔な説明**	**・チラシの文章を簡潔にする（Easy）**
燃料	**②図やイラストが多くて分かりやすい説明**	**・チラシに図やイラストを入れる（Easy,Attractive）**
燃料	③動作指示が明確	・5W1Hで取るべき行動を明確化する（Easy）
摩擦	④マイナポイントのメリット・申請方法を知らない	・メリットの強調（Attractive） ・申請しない不利益を記載（Attractive）
摩擦	⑤年休取得への抵抗感	・年休を取得しやすい職場環境にする（Social） ・上司からへ積極的な声掛け（Social） ・長時間かからないことを明示する（Easy,Attractive）
燃料	⑥カードに必要性、メリットを感じる	・申請する利益を記載（Attractive） ex.20,000円分ポイント貰える、接種証明書の携帯不要
摩擦	**⑦PCスマホ申請方法がわかりづらい**	**・①～②と同じ**
燃料	**⑧仕事の空き時間で撮影できる場所がある**	**・身支度の手間をなくす（Easy,Timely）** **・勤務時間中や昼休みでも撮影ができる場所(Easy,Timely)** ・誰でも難なく申請できるような説明のチラシを貼る（Easy）
摩擦	**⑨自分で撮影すると写真写りが悪い（自撮りが苦手）**	**・自分で簡単に撮影できる環境（Easy）**

ユーザー中心デザインに関する文献を参考に、質問事項やポイントを事前に作成してインタビューに臨みました。
「〇〇はなぜか」と相手に分析させるのではなく、**対話を通じて「対象者自身が気づいていない摩擦・燃料をいかに引き出していくか」**を意識しました。
「自撮りだと写りが悪い」など、事前に予想していなかった摩擦の発見もあり、インタビューの重要性を実感しました。



保健福祉総務課
佐藤主事

３－４－３　マイナンバーカード取得率向上

- **１つ目の介入策として「セルフ撮影ブース」を本庁18階（1801会議室）に設置**

要素	詳細
目的	自撮りが苦手な人が、簡単に撮影できる
誰に対して	職員S（ペルソナ）
タッチポイント	デスクネッツの電子掲示版の確認時に認知 ⇒撮影ブースへ足を運ぶ
いつ	２月中旬から３月末まで
評価方法	利用者数が使用簿に正の字でチェック
促す行動変容	写真撮影が面倒という意識を変える 自撮りが苦手という意識を変える



＜Before：通常＞



＜After：ブース利用＞

～利用者の声～

「ライトがよかった」
「気兼ねなく、何回も撮影できました！」
「すべりこみました」



＜改善案のエッセンス＞

- 面倒な要因の減少
- 整った撮影環境
- 身支度の手間なし
- 職場で撮影できる

３－４－４　マイナンバーカード取得率向上

- **２つ目の介入策として「EAST」に基づくチラシを作成し、電子掲示板に掲載**

要素	詳細
目的	スマホで申請できること、庁内に撮影ブースがあることを知ってもらう
誰に対して	職員S（ペルソナ）
タッチポイント	職員ポータル掲示版
いつ	２月中旬から３月末まで
評価方法	３月末時点の職員のカード取得率（前後比較分析）
促す行動変容	写真撮影が苦手、面倒という気持ちを取り除く 申請が面倒という印象を変える

＜改善案のエッセンス＞
- デフォルト設定
- 面倒な要因の減少
- 動作指示の明確化
- 対象者の関心を引く



オンラインブースのアイディア出しや企画構想・設置、チラシ作成を主に担当しました。東北芸術工科大学院卒後、産業技術総合センターでプロダクトからグラフィックまで幅広い分野でデザインに携わっていますが、**今回のプロジェクトで自分の特技やスキルを活かすことができ、とても貴重な機会でした。**



産業技術総合センター　篠塚研究員

３－５－１　職場の換気奨励

- **冬季では、多くの建物の室内においてCO2濃度などの空気環境基準を超過する可能性あり**
- **行動変容をさせたいテーマは「職員による自主的な換気行動」**

目標　**換気回数増加 ＆ 室内CO2濃度減少**

ターゲット（ペルソナ）

Aさん



４５歳　男性

- 窓に近い中堅男性班長
- 管理職とよく立ち話で報告や相談をしている
- 換気は必要と思うが**開閉のタイミングが分からず忘れてしまう**
- 換気で寒がる人がいるのではと**遠慮してしまう**

Bさん



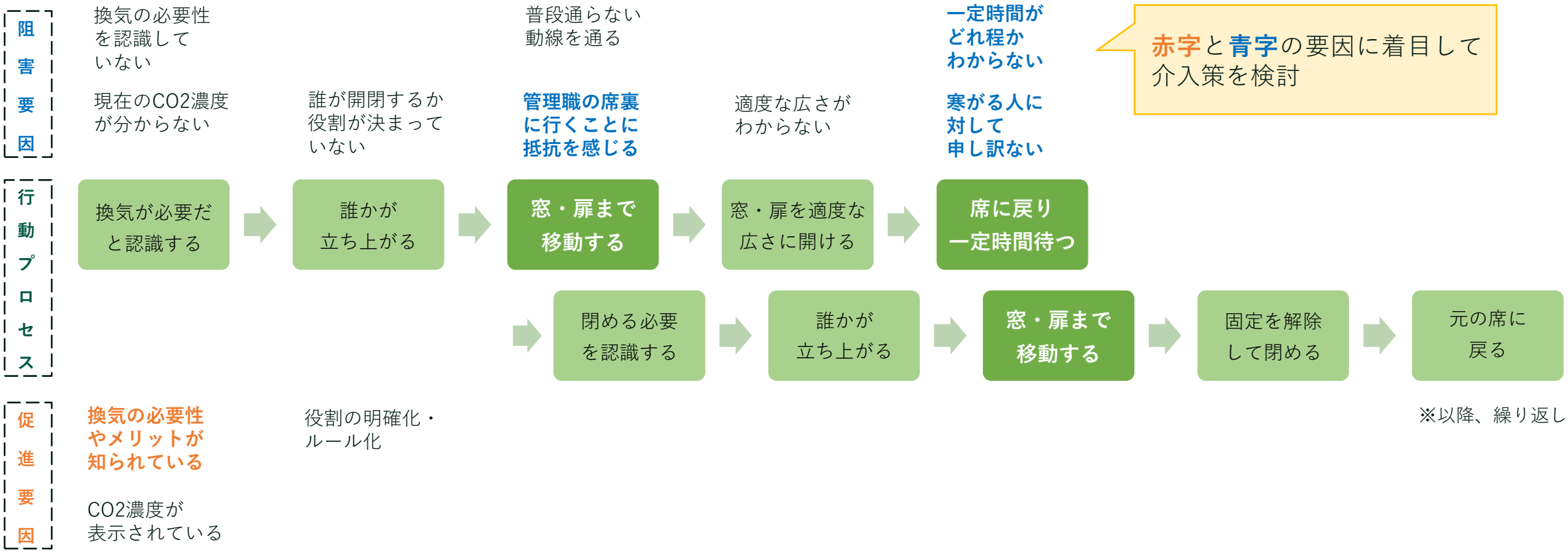
２６歳　女性

- 窓から遠く、扉に近い若手女性職員
- よく気づくが忙しく、手一杯になることも
- 冷え性
- 管理職とはレクや決裁以外の接点が少なく、**距離を感じている**

3－5－2　職場の換気奨励

- **ペルソナをもとに、換気行動に至るまでの行動プロセスを細かく書き出す**
- **COM-Bモデルで「能力」「機会」「モチベーション」の阻害要因（摩擦）＆促進要因（燃料）を分析**

阻害と促進を検討



３－５－３　職場の換気奨励

- **行動プロセスマップをもとに優先課題を絞り、介入策（解決策）を検討**
- **ユーザーである所属の視点や意見を踏まえながらポスターを作成**

優先課題の整理

COM-Bモデル分類	詳細
能力(認知)	開閉する**役割が不明** （※ルール化等はナッジの範疇を超えるため今回は除外）
機会(環境)	開閉する**タイミングが不明**
モチベーション(結果予測) 機会(社会的規範)	窓に近い**管理職への配慮**や寒さ等による**同僚への負い目**

換気行動の心理的ハードルを下げる介入策を検討

介入策の検討

介入策：ポスター掲示による啓発

① **タイミング/回数の明示**による行動肯定
② **上司/周囲からの感謝＆奨励の明示**
③ 「ポスター⇒窓」の視認を狙いに、
　窓際にある**管理職席の机の前面**に掲示



３案を作成し、
最終的には検証先
所属が決定

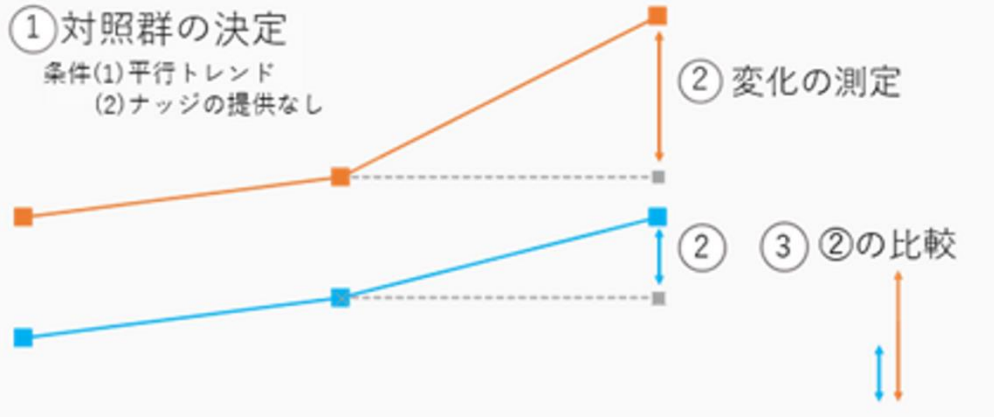
３－５－４　職場の換気奨励

- **換気回数と室内CO2濃度をアウトカム指標として、２所属でデジタル機器を活用して測定を実施**
- **差分の差分析により効果検証を実施**

検証の方法

要素	詳細
測定器	MESH（窓開閉の振動検知により換気回数を測定できる機器） CO2測定器
測定場所	地方事務所　所属A・所属B ※類似した環境条件であり介入策の結果を比較しやすい（平行トレンドが確認できる）場所を選定
測定期間	2月20日～3月3日　測定器の設置のみ 3月3日～3月17日　測定器の設置＋ポスター掲示
分析方法	差分の差分析

差分の差分析のイメージ



①平行トレンドが確認できる所属Aと所属B間で、②換気回数とCO２濃度の変化を測定し、③その差を比較



MESH



CO2測定器

今回の分析を担当しています。行政という分野で「データサイエンス」が日の目を見つつあり、遂にこの時代が来たか…と思うと、感慨深いです。ワクワクしませんか？

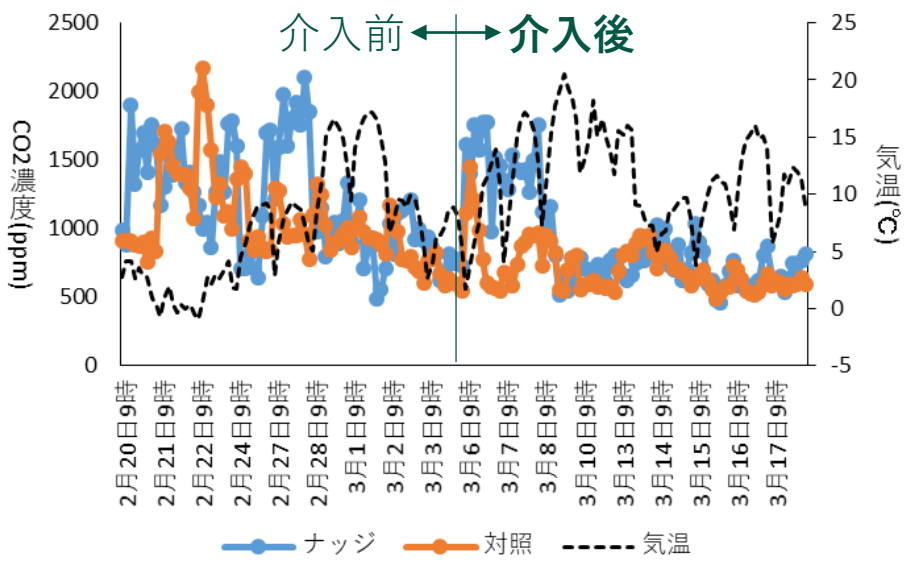
東部保健福祉事務所 登米地域事務所　太田技師



参考：MESHホームページ（https://meshprj.com/jp/）、スリー・アールシステム（株）ホームページ（https://3rrr-hd.jp/）

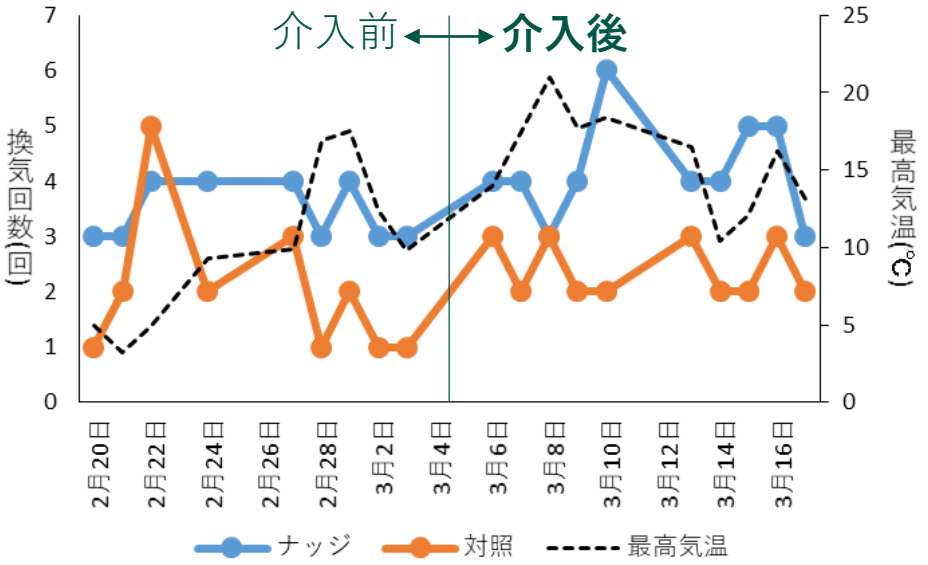
3－5－5　職場の換気奨励

- **ナッジ、対照ともにCO2濃度は減少、換気回数は増加。ただし、両者の差分に有意差は見られず、時系列トレンドの範囲内であることから、気温の上昇が換気行動を促進したと考察**
- **気温上昇した3/6以降、ナッジ群では窓のみ開放したのに対し、対照群ではドアも併せて開放。両者の濃度・回数の差分に有意差が無いため、「ポスター設置」と「ドア開放」が同程度の換気効果を生じた可能性あり**



CO2濃度の減少効果（1時間値の平均）

ナッジ：-287 ppm
対照　：-330 ppm
} 有意差無し　p = 0.09



換気回数の増加効果（1日値の平均）

ナッジ：＋0.76回
対照　：＋0.40回
} 有意差無し　p = 0.35

～ナッジ群職員の声～

「ポスターが
分かりやすい」
「これを見て換気
しなければと思った」
「周囲から感謝されて
いる気がしました！」



地方事務所 A

出所：R Core Team (2023).　R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria.　URL https://www.R-project.org/.

３－６－１　市町村勉強会（オンライン）

- **外部機関との協働のきっかけとして、住民との接点が多く、ナッジの活用可能性が大きい市町村職員等を対象としたオンライン勉強会「～今日から使える行動科学～行政ナッジ勉強会」を開催**
- **307人と多くの申込があり、アンケート結果（160件）では 93.8%の回答者から好評の意見あり**

日時　令和4年11月29日（火）14:00～15:30
講師　行政経営推進課　伊豆主事
内容　認知バイアスやEASTフレームワークの紹介、簡単な実践ワーク等



録画映像も後日、市町村等で視聴可能とした

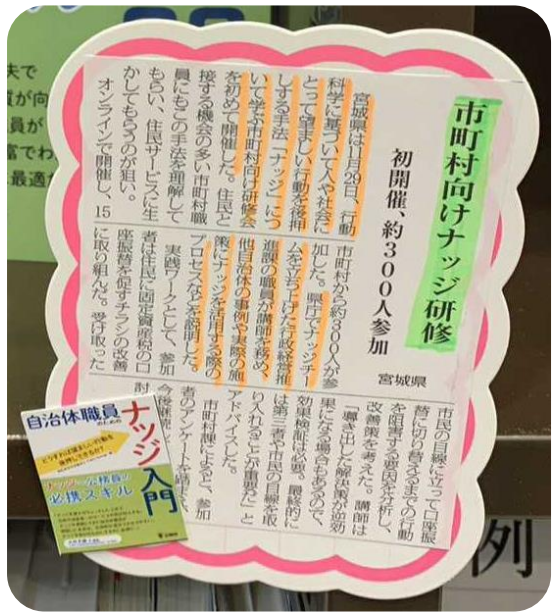
～参加者の声～

「他自治体の事例をそのまま真似してもうまくいかない」という実感のこもったアドバイスに、背筋が伸びました。ナッジはあくまでも手段の一つである旨、学びました。

市町村独自でこういった先進的な発想を取り入れていくのは難しい中で、県が情報提供だけでなく勉強会まで設定してくれたというのは、それだけ担当職員の情熱を感じた。

問合せを最小限にしたい思いから、必要情報を漏らさず掲載しがちですが、かえって読む気を奪ってしまっていた。EASTの観点からチラシの再構成に関心を持ちました。

仙台市内の書店では本勉強会記事をPOPで紹介！



※その他、R5.1.18 気仙沼・本吉地域広域行政事務組合でも、 PolicyGarageの津田広和氏を講師として、管内行政職員向けのナッジ研修会を開催

３－６－２　市町村勉強会（グループワーク編）

- **オンライン勉強会の結果を踏まえ、第２弾としてグループワーク編を開催し、市町村職員等28人が参加**
- **MyBiTメンバーが、献血をテーマとしたオリジナルのグループワークを企画し、当日も参画**
- **アンケート結果（20件）では回答者全員が一定程度の効果を実感。「勉強になった」とのコメント多数！**

日時　令和5年1月24日（火）13:30～15:45
運営　行政経営推進課　伊豆主事、MyBiT 11名
　　市町村課４名、薬務課１名（傍聴）
内容　行動プロセスマップの作成からナッジの検討までの一連の流れを体験
　　各グループにはMyBiTメンバーをファシリテーターとして配置

- 住民との接点が多い市町村の実務への理解を深め、より効果的なナッジを設計・提案できるように！
- 市町村職員との連携を深め、今後の連携のきっかけをつくる！
- ファシリテーターを通じて、今後の普及活動の拡大へつなげる！（研修講師など）



以前の研修で１人で考えたときにはあまり思い浮かばなかった発想が湧いてくる体験ができました！

グループ内で活発に意見を出し合うことができ、ナッジの設計プロセスをとても実践的に学ぶことができました！



旧



新



※R５.５河川課が、市町村防災担当者向けに、ポリシーナッジデザイン合同会社・植竹氏（仙台市出身）を講師とした「防災×ナッジ」の研修会を開催予定

３－７－１　外部組織との連携

- **東北経産局や仙台市とナッジやデザイン思考の活用に関する意見交換を実施し、来年度以降、協働して勉強会を実施するほか、研修講師や伴走支援の依頼に対応予定**
- **チャットツールのslackを活用して、外部の有識者に個別プロジェクトについて相談し、ネットワーク構築**

外部組織との連携状況

区分	連携先	内容	時期
勉強会	東北経済産業局	国・県・市町村職員による合同のデザイン思考勉強会	R5～
勉強会・伴走	仙台市泉区保健福祉センター	被保護者の基礎健診受診率の向上に向けて勉強会と実践支援	R5～
研修・伴走	その他県内市町村	研修講師、個別事業の伴走支援	R5～
事例相談	つくばナッジ勉強会・金野氏	ランダム化比較試験の倫理的配慮について相談	R4
事例相談	岡山県・安藤氏	職場の換気奨励の効果検証について相談	R4

slack

・宮城県情報セキュリティ対策基準第８章第４（５）の規定により、デジタルみやぎ推進課へ外部サービス利用許可申請（10/27付け許可）
・slackのフリープランを活用し、専用ワークスペース構築

私自身も知見を深める機会になりました！



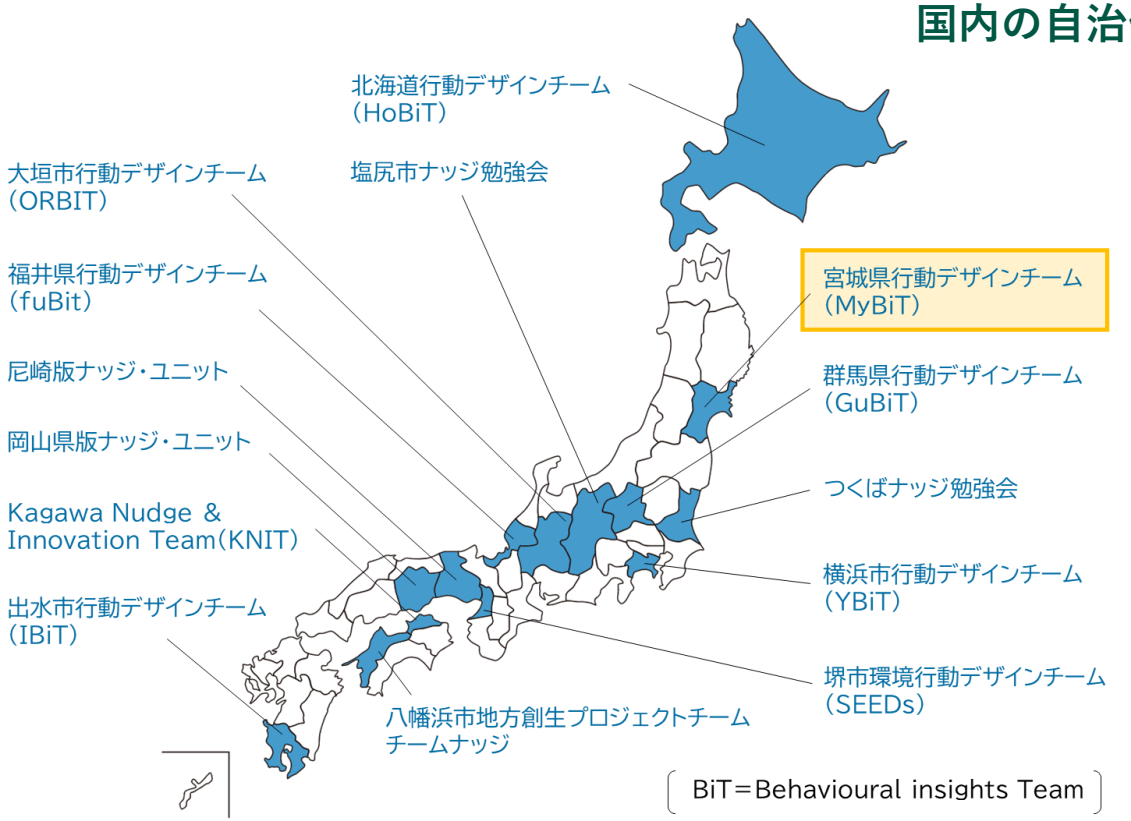
つくばナッジ勉強会　金野氏
（ベストナッジ賞2021受賞）

出所：自治体ナッジシェア（https://nudge-share.jp/）、 slack（https://slack.com/intl/ja-jp/）

3－7－2　外部組織との連携

- **東北初の自治体ナッジユニットとして、省庁、自治体、民間、大学とのネットワークに参画し、メンバーはシンポジウムにも登壇**
- **東北他県においてもナッジをきっかけとした政策イノベーションの動きがあり、今後の連携が見込まれる**

国内の自治体ナッジユニット





この４年間で自治体のナッジユニットが１→14ヶ所に増え、地域の特性に合わせた形で展開されていることを確認しました！ぜひ、MyBiTを起点に東北圏域でナッジユニットの輪が広がることを期待しています！



横浜市行動デザインチームYBiT
髙橋勇太氏

出所：自治体ナッジシェア（https://nudge-share.jp/）

３－８－１　情報発信（庁外）

- **時事通信iJAMP官庁速報で紹介され、閲覧数ランキング１位！**
- **自治体国際化協会（クレア）によるJLGCセミナーにおいても紹介されたほか、体制構築プロセスや取組について、機関誌や各種研修でも取り上げ実績あり**



時事通信iJAMPの2022年12月2日付け官庁速報のうち「◎職員ナッジチームが始動＝東北初、業務を伴走支援ー宮城県」が堂々の閲覧ランキング１位に！

公務員に役立つサイト iJAMP ポータル 時事通信社

また、ウェブ上で無料で閲覧できるiJAMPポータルの連載コラム「行政×ナッジの可能性」でも紹介予定



国際的なセミナーにおいて、日本の自治体ナッジユニット設立の事例として紹介される
その他、海外論文 Behavioural Public Policy投稿中

先進政策バンク 先進政策創造会議

全国知事会「先進政策バンク」にもエントリー



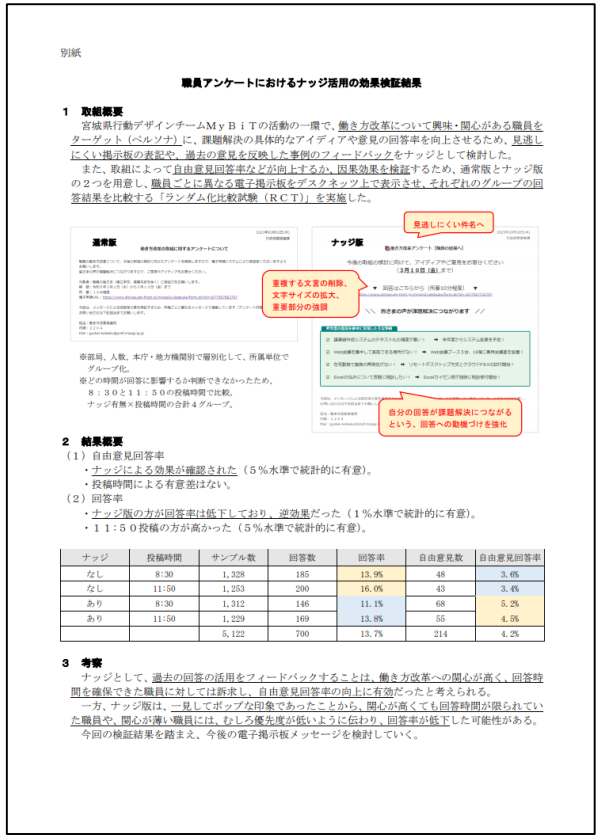
総務省外郭団体が発行する機関誌2023年４月号でも紹介予定（4/10～）

出所：時事通信（https://www.jamp.jiji.com/info/）、自治体国際化協会（https://www.jlgc.org.uk/jp/）、行政情報システム研究所（https://www.iais.or.jp/）

3－8－2　情報発信（庁内）

- **ICT政策推進委員会において、働き方改革アンケートの改善プロジェクトのレポートを先行報告**
- **総合政策課が発行している「提案募集ニュースレター」とコラボ。提案募集方式やナッジがあくまで課題解決の手段であることを前提に、行動プロセスを踏まえた課題分析に焦点をあてて解説**

R4の庁内報・庁内レポート



別紙

職員アンケートにおけるナッジ活用の効果検証結果

1　取組概要

宮城県行動デザインチームＭｙＢｉＴの活動の一環で、働き方改革について興味・関心がある職員をターゲット（ペルソナ）に、課題解決の具体的なアイデイアや意見の回答率を向上させるため、見逃しにくい掲示板の表記や、過去の意見を反映した事例のフィードバックをナッジとして検討した。

また、取組によって自由意見回答率などが向上するか、因果効果を検証するため、通常版とナッジ版の２つを用意し、職員ごとに異なる電子掲示板をデスクネット上で表示させ、それぞれのグループの回答結果を比較する「ランダム化比較試験（ＲＣＴ）」を実施した。

※部局、人数、本庁・地方機関別で層別化して、所属単位でグループ化。
※どの時間が回答に影響するか判断できなかったため、８：３０と１１：５０の投稿時間で比較。
ナッジ有無×投稿時間の合計４グループ。

2　結果概要

（１）自由意見回答率
・ナッジによる効果が確認された（５％水準で統計的に有意）。
・投稿時間による有意差はない。

（２）回答率
・ナッジ版の方が回答率は低下しており、逆効果だった（１％水準で統計的に有意）。
・１１：５０投稿の方が高かった（５％水準で統計的に有意）。

ナッジ	投稿時間	サンプル数	回答数	回答率	自由意見数	自由意見回答率
なし	8:30	1,328	185	13.9%	48	3.6%
なし	11:50	1,253	200	16.0%	43	3.4%
あり	8:30	1,312	146	11.1%	68	5.2%
あり	11:50	1,229	169	13.8%	55	4.5%
		5,122	700	13.7%	214	4.2%

3　考察

ナッジとして、過去の回答の活用をフィードバックすることは、働き方改革への関心が高く、回答時間を確保できた職員に対しては訴求し、自由意見回答率の向上に有効だったと考えられる。

一方、ナッジ版は、一見してポップな印象であったことから、関心が高くても回答時間が限られていた職員や、関心が薄い職員には、むしろ優先度が低いように伝わり、回答率が低下した可能性がある。

今回の検証結果を踏まえ、今後の電子掲示板メッセージを検討していく。



地方分権に関する　MyBiT コラボ特別号

提案募集 Newsletter

令和４年度 第１７号

一人でも多くの庁内職員・市町村等職員に「提案募集方式」による国の制度改善を知っていただき、日頃の業務で感じている支障の改善に繋げたいという想いで、本誌を発行します。

みなさん、こんにちは！ いつもご愛読いただきありがとうございます！
これまで、課題解決の手法として「提案募集方式」をご紹介してきました。今回は「業務改善したいけど、そもそも何が本当の課題かわからないんです！」という方に向けて、課題を分析する手法を「MyBiT」板橋さんからご説明いただきます！

総合政策課　神崎

宮城県行動デザインチーム MyBiTの板橋です。
担当業務に課題を感じているときは、根本原因を突き止めて、より効果的な施策を選択する必要があります。今回は、MyBiTがオススメする原因追究から解決策発見までのステップを、生活保護費返還金の納付を例に説明してみます。

STEP 1　解決したい「課題」を特定し、目標とする「行動」を考えよう！

課題　生活保護費返還金※の収納率が低い ▶ 収納率を高めたい！
行動　生活保護費返還金を納付する
対象者　【例１】生活保護を受けた後に保険金等の臨時収入があった方
【例２】就労して得た給与を申告していなかった方　など

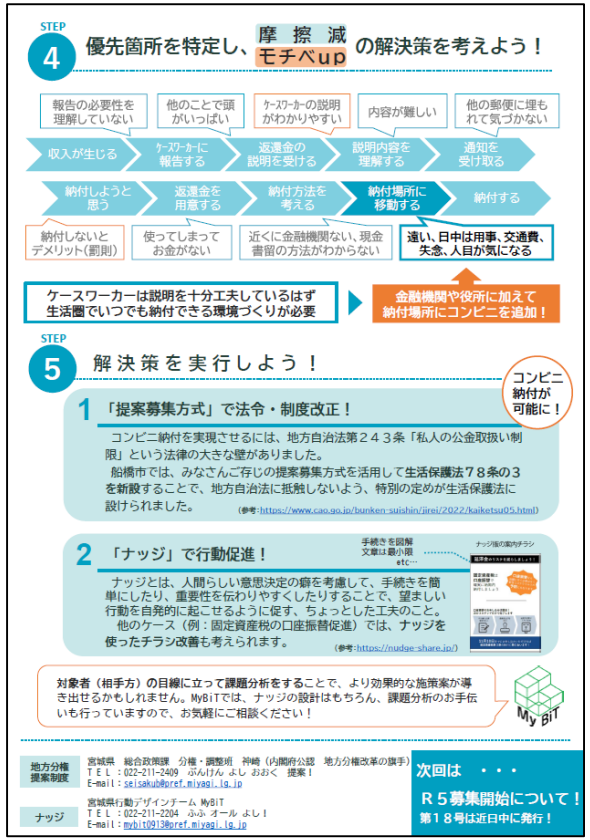
※生活保護費返還金とは…支給した生活保護費のうち必要を超えて支給した分などについて、対象者に返還してもらうもの。

STEP 2　変えたい行動（納付行動）を細かく分解（マッピング）してみよう！

収入発生　？　納付

STEP 3　行動を妨げる要因（摩擦）、行動を促す要因（モチベーション）を考えよう！

報告の必要性を理解していない / 他のことで頭がいっぱい / ｹｰｽﾜｰｶｰの説明がわかりやすい / 内容が難しい / 他の郵便に埋もれて気づかない
収入が生じる / ｹｰｽﾜｰｶｰに報告する / 返還金の説明を受ける / 説明内容を理解する / 通知を受け取る
納付しようと思う / 返還金を用意する / 納付方法を考える / 納付場所に移動する / 納付する
納付しないとデメリット（罰則） / 使ってしまってお金がない / 近くに金融機関ない、現金書留の方法がわからない / 遠い、日中は用事、交通費、失念、人目が気になる



STEP 4　優先箇所を特定し、摩擦 減 モチベup の解決策を考えよう！

報告の必要性を理解していない / 他のことで頭がいっぱい / ｹｰｽﾜｰｶｰの説明がわかりやすい / 内容が難しい / 他の郵便に埋もれて気づかない
収入が生じる / ｹｰｽﾜｰｶｰに報告する / 返還金の説明を受ける / 説明内容を理解する / 通知を受け取る
納付しようと思う / 返還金を用意する / 納付方法を考える / 納付場所に移動する / 納付する
納付しないとデメリット（罰則） / 使ってしまってお金がない / 近くに金融機関ない、現金書留の方法がわからない / 遠い、日中は用事、交通費、失念、人目が気になる

ケースワーカーは説明を十分工夫しているはず 生活圏でいつでも納付できる環境づくりが必要 ▶ 金融機関や役所に加えて納付場所にコンビニを追加！

STEP 5　解決策を実行しよう！

コンビニ納付が可能に！

1　「提案募集方式」で法令・制度改正！
コンビニ納付を実現させるには、地方自治法第２４３条「私人の公金取扱い制限」という法律の大きな壁がありました。
船橋市では、みなさんご存じの提案募集方式を活用して生活保護法７８条の３を新設することで、地方自治法に抵触しないよう、特別の定めが生活保護法に設けられました。
（参考：https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/jirei/2022/kaiketsu05.html）

2　「ナッジ」で行動促進！
ナッジとは、人間らしい意思決定の癖を考慮して、手続きを簡単にしたり、重要性を伝わりやすくしたりすることで、望ましい行動を自発的に起こせるように促す、ちょっとした工夫のこと。
他のケース（例：固定資産税の口座振替促進）では、ナッジを使ったチラシ改善も考えられます。
（参考：https://nudge-share.jp/）

手続きを簡単 文章は最小限 etc…
ナッジ版の案内チラシ

対象者（相手方）の目線に立って課題分析をすることで、より効果的な施策が導き出せるかもしれません。MyBiTでは、ナッジの設計はもちろん、課題分析のお手伝いも行っていますので、お気軽にご相談ください！

地方分権 提案制度　宮城県　総合政策課　分権・調整班　神崎（内閣府公認　地方分権改革の旗手）
ＴＥＬ：022-211-2409　ぶんけん よし おおく　提案！
E-mail：seisaku@pref.miyagi.lg.jp

ナッジ　宮城県行動デザインチーム MyBiT
ＴＥＬ：022-211-2204　ふぶ オール よし！
E-mail：mybit0913@pref.miyagi.lg.jp

次回は　・・・
Ｒ５募集開始について！
第１８号は近日中に発行！

記事作成やデザイン調整を担当しました。内容やデザインは、メンバーやメンバーの所属部署と協力して、分かりやすさ・見やすさを確認しつつ作成しました。作成の過程でメンバーから沢山のアドバイスをいただき自分自身の成長の機会になるとともに、コラボらしい新鮮な話題を提供することができました。



税務課
板橋主事

３－９　メンバー同士の研鑽

- **メンバーで参考図書リストを作成し、行政経営推進課に設置された図書交流スペース等を介して共有するとともに、希望者はレンタルして自主的に知識獲得・スキルアップ**
- **そのほか、チャット上で業界の最新動向や参考情報を随時共有**

図書交流スペースと参考文献リスト（一部抜粋）





	A	B	C	D	E	F	G
1	No	検索	書籍名	著者	出版社	出版年	区分
2	1	検索	行動経済学の使い方	大竹文雄	岩波新書	2019	行動科学
3	2	検索	行動経済学の処方箋	大竹文雄	中公新書	2022	行動科学
4	3	検索	あなたを変える行動経済学	大竹文雄	東京書籍	2022	行動科学
5	4	検索	今日から使える行動経済学	佐々木周作ほか３名	ナツメ社	2019	行動科学
6	5	検索	自治体職員のためのナッジ入門	特定非営利活動法人PolicyGarage	公職研	2022	行動科学
7	6	検索	ナッジ・行動インサイトガイドブック：エビデンスを踏まえた公共政策	白岩祐子、池本忠弘　ほか	勁草書房	2021	行動科学
8	7	検索	ナッジ!?：自由でおせっかいなリバタリアン・パターナリズム	那須耕介、橋本努　ほか	勁草書房	2020	行動科学
9	8	検索	ナッジ×ヘルスリテラシー	村山洋文ほか２名	大修館書店	2022	行動科学
10	9	検索	公衆衛生 vol.85 No.12 2021 Dec.	-	医学書院	2021	行動科学
11	10	検索	NUDGE　実践行動経済学完全版	リチャード・セイラー、キャス・サンスティーン	日経BP	2022	行動科学
12	11	検索	入門・行動科学と公共政策：ナッジからはじまる自由論と幸福論	キャス・サンスティーン	勁草書房	2021	行動科学
13	12	検索	ファスト&スロー	ダニエル・カーネマン	早川書房	2014	行動科学
14	13	検索	NOISE	ダニエル・カーネマン、オリヴィエ・シボニー、キャス・R・サンスティーン	早川書房	2021	行動科学
15	14	検索	予想どおりに不合理	ダン・アリエリー	早川書房	2013	行動科学
16	15	検索	無料より安いものもある	ダン・アリエリー、ジェフ・クライスラー	早川書房	2021	行動科学
17	16	検索	いつも「時間がない」あなたに　欠乏の行動経済学	センディル・ムッライナタンほか１名	早川書房	2017	行動科学
18	17	検索	最後通牒ゲームの謎	小林佳世子	日経評論社	2021	行動科学
19	18	検索	デザインリサーチの教科書	木浦幹雄	BNN	2020	デザイン思考

・リスト掲載数：**321**冊
　ナッジ・デザイン・EBPM：58冊
　その他：263冊
・貸出実績：**43**冊(R4.10~R5.3)

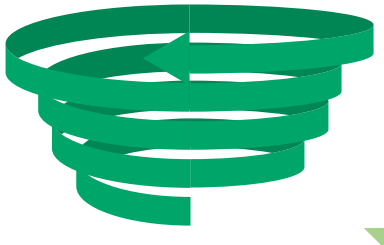
メンバーが紹介してくれる本が面白い！



復興支援・伝承課　田渕主事

3－10　MyBiTにおける「学び」のフィードバックサイクル

- 「学びあい」「実践」「シェア」のサイクルが高速循環することにより、知見とスキルが継続的に蓄積





学びあい

メンバー
交流

外部連携

庁内連携

シェア

実践





４.今後の展開予定

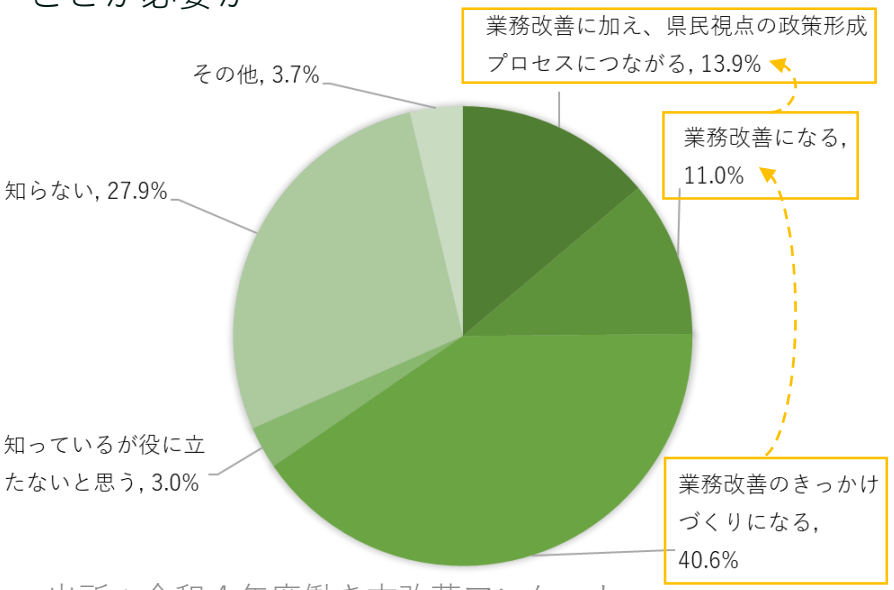
４－１－１　現状認識と課題

- **庁内のナッジ認知度は高まったものの、ナッジを「きっかけ」にデザイン思考やEBPMを推進したいという活動理念や、あくまで作業仮説としてナッジの知見を活用していることを伝えきれていない**
- **デザイン思考の認知度や実践を広げるための取組が不十分**

R4働き方改革アンケートの結果（N=700：対象5,122人、回答率13.7%）

Q．「ナッジ」について最も当てはまるものを選んでください

約７割が認知済み。今後は、そのような職員をターゲットに**ナッジとデザイン思考、EBPMの関連性を示し、期待できる政策形成プロセスの変革**を周知することが必要か



（その他）

ナッジやDXなどそれっぽい言葉を並べるだけでなく、本質的なことをやって欲しい

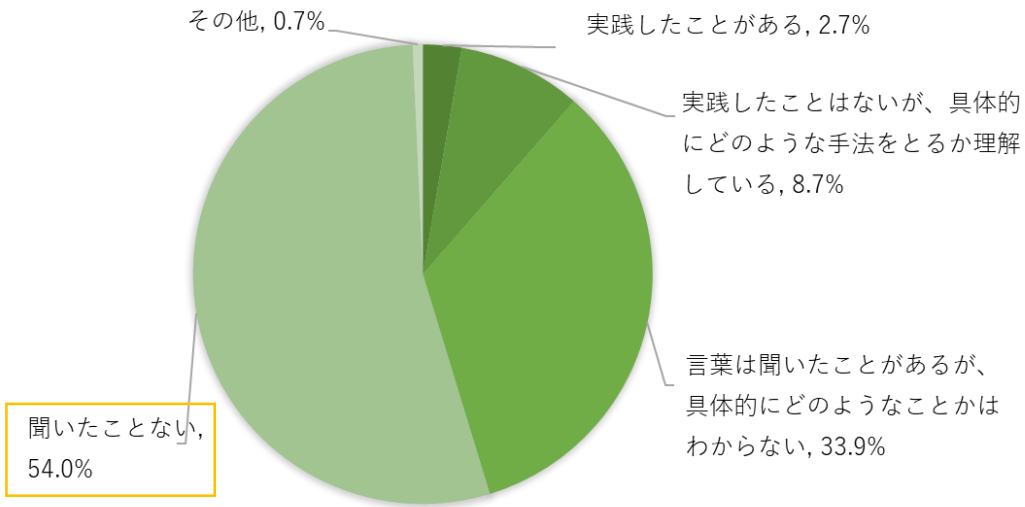
行政にありがちな流行りに乗っただけで長続きしないと思う

システマティックレビューでは効果に否定的なので慎重に検討すべき

偏らず科学的根拠に基づいて情報発信すること

Q．「サービスデザイン思考」について最も当てはまるものを選んでください

「聞いたことない」が半数以上であり、まずは**認知度向上**の取組が必要か



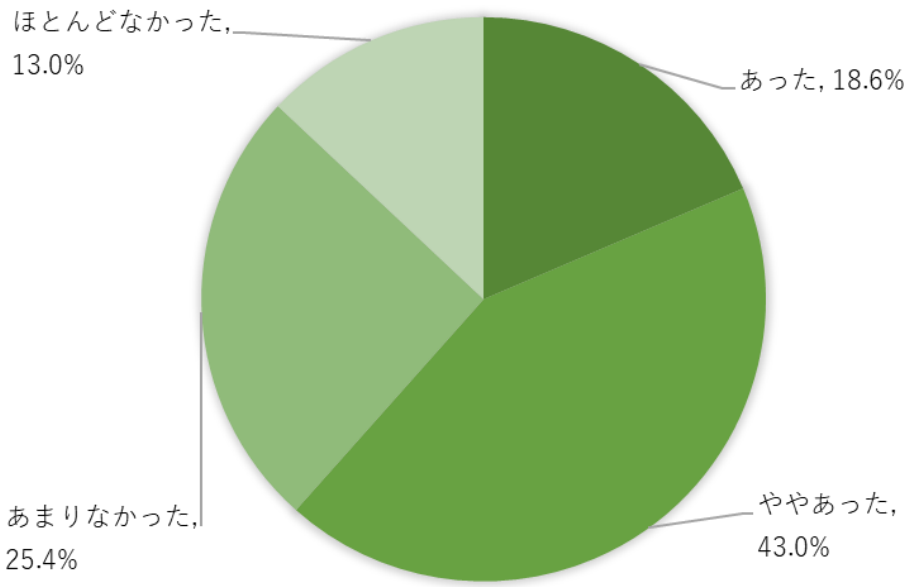
出所：令和４年度働き方改革アンケート

４－１－２　現状認識と課題

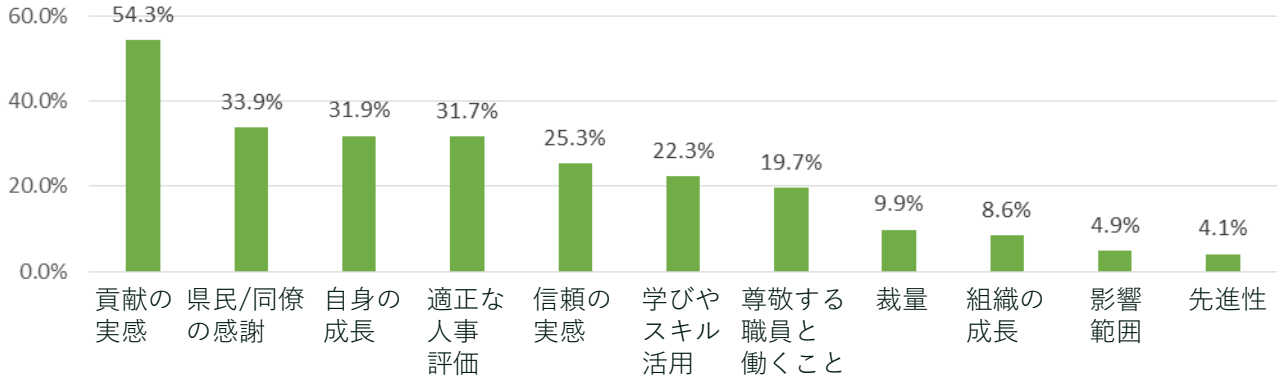
- **MyBiTは、仕事のやりがいやワクワク感をひろげることをMissionとしているが、現状は「自分の学びや得意な技能を発揮し、人・組織・地域の役に立てた」と必ずしも感じていない職員が一定数存在**
- **MyBiTの活動を通じて貢献の実感を拡大し、来年度、上記指標を前後比較し、取組の効果検証とする**

R4働き方改革アンケートの結果（N=700：対象5,122人、回答率13.7%）

Q．この一年間で自分の学びや得意な技能を発揮し、人・組織・地域の役に立てたと思えた場面はありましたか。



Q．働きがいの源泉となるものは何ですか（３つまで回答可）



Mission
政策効果の見える化により、仕事のやりがいやワクワク感を庁内にひろげる【職員への貢献】

Vision
所属や役職にとらわれず、得意分野を活かして、自分らしく、やりがいを持って働くことができ、意義のある仕事を通じて自己成長できる組織

出所：令和４年度働き方改革アンケート

４－２　令和５年度以降の取組予定

- **令和５年度に改めてメンバーを募集。「My Mission」と「MyBiT's Mission」を共有し、熱量を維持しつつ、サステナブルな運営体制を検討した上で再始動**
- **庁内や市町村からも相談案件を募集し、伴走支援を進めるほか、勉強会の開催を継続的に実施**

R5スケジュール（予定）

R5.4-5 活動準備	R5.6-R6.1　本格活動	R6.2-3 検証
メンバー募集 （期間を設けて募集、その後は随時） **Missionの共有** **ロジックモデルの見直し** **活動方針の検討**	**伴走支援** ・庁内外から相談案件を募集 ・R4は十分な時間を確保できなかったユーザーリサーチ・テストに注力 ・効果検証に留意し、ベストナッジ賞コンテスト2023に複数案件の申請を目指す **メンバー勉強会**（EBPM、グラフィックデザイン、ファシリテーションなど想定） **庁内外勉強会講師**（国・県内市町村・庁内事業担当課との連携） **庁内報**（実施方法は効果検証も含めて要検討） **連携プロジェクト模索**（民間企業、研究機関、学生、Excelカイゼン隊など）	**アウトカム指標の検証** （材料：働き方改革アンケート結果など） **活動報告書の作成** **令和６年度以降の体制・活動方針検討**

５.サポーター&メンバーのメッセージ

5－1　サポーターのメッセージ



大阪大学 感染症総合教育研究拠点 特任教授
行動経済学会 理事　佐々木周作

この活動報告書にも実はナッジがあふれています。
50ページに及ぶ内容を大きな負担なく、でも読み飛ばさずに、理解してもらうにはどうしたらいいか。
ナッジを学ぶと、そんな心遣いが県民サービスの改善につながることを確信してもらえると思います。



財務省/PolicyGarage 代表理事　津田広和

行政のあり方が問われる中で、行政や政策の変革の担い手は都市や地方になるのが国際的な潮流です。
MyBiTやその担い手は、行政職員や住民を中心として、革新的な政策手法の実践や、チーム・エコシステムの形成・運営に至るまで、日本を牽引するものであり、とても期待しています。



デジタル庁/PolicyGarage 理事　志水新

MyBiTの取り組みを通じて感じた「伝え方や市民の体験がよりよくなった」という感覚を大切にしてください。今後もMyBiTから生まれる新しい取り組みやその過程で生まれた知恵をぜひ共有し、全国の地方自治体に変革の輪を広げていってください。



環境省/PolicyGarage 理事　加藤優里

臆せず精力的に試行をしながらも、土台となる組織づくりにもしっかりと取り組むとは、言うは易し行うは難しですが、それを具現化するMyBiT！
「行動デザインチーム」にとどまらず、全国の公務員の「エンパワメントチーム」として、ますますのご活躍を楽しみにしています。



総務部長　志賀真幸

これまでの行政に足りなかった新しい視点に着目したことも素晴らしいですが、若手が主体となって組織横断的な副業チームを自主的に立ち上げたことにも大きな意義があると思います。庁内でも日増しに刺激が広がっており、さらなる活動の展開に大いに期待しております！



行政経営推進課長　鈴木智子

MyBiTの活動は、サービスの受け手への想像力・洞察力が起点となっており、あらゆる業務で生きてくるスタンスとスキルだと思っています。メンバーの皆さんが、議論を重ね、楽しみながらアウトプットしている様子が頼もしい！これからもオープン＆コラボラティブに色々な人を巻き込んでいくことを期待しています。

５－２－１　メンバーのメッセージ

行政経営推進課　主事　伊豆勇紀

チームの設立にあたり、自分の中で思い描いた10年後、５年後、１年後のビジョンが、控えめだったかな、と思える程、短期間で実りあるプロジェクトを進められました。また、魅力あるメンバーから刺激を受け、興味の幅も広がりました。今後は、より県民サービスの向上に直結するような活動にしていきたいです。

財政課　主査　勝倉司

ナッジやデザインなどの知識が全くない中で「面白そうな活動だな」と感じた感覚だけで参加しました。専門的な知識が無くても、これまでの経験を活かすこともでき、また、新たに学ぶことも多い活動だと思いますので、迷っている方はぜひ気軽に参加してください！

税務課　主事　板橋佐知子

短い期間でしたが、熱意のあるメンバーとのやりとりの中で自身の気づきや成長につながる場面が数多くありました。ナッジやデザイン思考をとおして業務が効果的かつもっと面白くなればいいなと思っています。また、庁内はもちろん外部とのつながりも広がっており、今後ますます楽しくなっていくと感じています。

市町村課　主査（副班長）　島津陽介

MyBiTの活動は様々な部署を超えて様々な背景を持つ職員のアイデアが結集して形になる面白さがあると思います。今後はさらに大きなアイデアを形にしていきたいです。

市町村課　主事　髙橋大地

富谷市から派遣で県庁に来ました。今年度に初めてナッジに出会い「これは自分の市役所に持ち帰らねば！」と強烈に感じ参加しました。
MyBiTの活動では、研修資料だけでは学べない、実践が伴った学びが得られます！

復興支援・伝承課　主事　田渕寛次朗

構想が形になり、庁内で新たな動きを作り出していることに感慨を覚えます。メンバーの得意分野を持ち寄りながら組織の困りごとを解決していくプロセスに参加してみて、改めて「県庁職員ってすごいなぁ」と感じる機会となりました。今後も様々な取組を展開できればと思います！

復興支援・伝承課　主事　横田祐紀

「面白そう」という興味関心だけで参加したので、メンバーの知識量や行動力に圧倒されてばかりでした。一方で、部局間の垣根を越えて、新たな視点、考え方、方法について、失敗を恐れずに実行する熱量に溢れた刺激的な機会でした。ここでの学びをどんどん業務に生かしていきたいです。

企画総務課　主事　礒野太輔

ナッジ・デザイン思考・EBPMという、多様化・複雑化する行政課題を解決するための新しい武器を手に入れることができましたし、自身の担当業務にも良い影響を及ぼしています。また、部局横断チームに関わることは、自分の見識を広げると共に縦割り的な思考に陥らないためにもおススメです。

総合政策課　主事　長岡恭平

MyBiTの活動を通して、これまでなんとなく感覚でやってきたデザインや表現方法などをロジック化していく過程を学ぶことができ、いい経験となりました。
脱前例踏襲に向けた第一歩としてぜひ庁内に浸透していけばいいなと思いました。

統計課　主事　岡本直也

政策形成のあり方を見直す手法として、いま、デザイン思考やEBPMに注目が集まっています。MyBiTでは、ナッジをきっかけにそれらを学んだり、実践できたりします。自分の業務を見直したい！革新的な政策手法がどんなものか知りたい！と思った方は、MyBiTと一緒に取り組んでみませんか？

お読みいただき、ありがとうございました！

5－2－2　メンバーのメッセージ

統計課　主事　大平香奈

MyBiTでは、職員が得意分野を生かし、様々な課題を解決していきます。所属の課題解決に少しでも貢献できたり、感謝いただいた時には、感慨深いものを感じます。メンバーはみな優秀な方ばかりで、宮城県をより良くしようとする意識が高いです。興味のある方、ぜひ一緒に活動しましょう！

保健福祉総務課　主事　佐藤駿

メンバーの豊富なアイディアや高い熱量に圧倒されたり、市町村職員の研修会でファシリテーションの難しさを痛感したりと、非常に刺激的で濃密な活動だと感じました。人間の行動の「癖」をうまく利用することで、人々を動かすことができる「ナッジ」の大きな可能性と奥深さを実感することができました。

子ども・家庭支援課　主事　渡邊千紘

通常業務の都合で、MyBiTの活動に携わることができた時間は短かったのですが、プロジェクトに関するチャットルームへの参加を通して、だいぶ視野が広がったり、知見を深めることができました。もっと活動に参加したいと思いました。

東部保健福祉事務所登米地域事務所　技師　太田耕右

今の自分に不満はありませんか。業務に課題はありませんか。
MyBiTはある意味知恵袋で、自己成長の場で、指針が見つかる場になり得ます。
成長したいという意志さえあれば、ワクワクできるはずです。

産業デジタル推進課　主事　小幡瑞紀

MyBiTでは考え、伝え、議論し、形にしていくことの難しさや楽しさを経験することができました。自分の未熟さを痛感することばかりですが、尊敬できる、素晴らしいメンバーの方々のおかげで頑張ろうと思える場所です！

気仙沼地方振興事務所農業振興部　技術主査　櫻田史彦

減っていく人員・予算、増えていく仕事、所属の壁、、、それぞれの職場で頑張るだけでは限界と感じ、MyBiTの理念に共感して参加しました。
県民サービスの向上・職員の働きやすさ・魅力ある職場づくりにつなげていきますので、御協力お願いいたします。

産業技術総合センター　研究員　篠塚慶介

僕にとってのデザインの面白さは、複雑なパズルのような課題を一つ一つ解いていくところにあります。解き方の定石もあるし、えっ！？となる奇手で挑むこともあります。今回、メンバーと自分一人では解けないパズルに挑戦できて、とてもワクワクしました。今後、活動をさらに広げ、新たな課題に挑戦したいです。

仙台土木事務所　主事　加藤洋介

ナッジやEBPMに興味はあるけれど、どうすれば良いかわからない人にヒントを与えてくれる活動だと思います。
県の仕事をより良くしたいという想いを持ったメンバーの皆さんとの活動は、楽しく、刺激的で、学びの多い時間でした。

生涯学習課　主査　及川泰史

ユーザー中心の政策立案、学びのシェアなど、長年やりたかったことがエコシステムとして実現しつつあり、県庁の地殻変動を感じています。職員皆がやりがいをもってイキイキと活動する姿は眩しく、何度もシビれた刺激的な一年でした。
少しでも興味がある人は、勇気を出してLet's dive in！

生涯学習課　主事　神尾佳洋

MyBiTの活動では、課題分析や相談案件の課題解決に向けた取組等を通じて、普段の業務で関わることのない他部局の職員との繋がりづくりや自分自身知識のないデザイン等を学ぶことができ、得難い経験となりました。

お読みいただき、ありがとうございました！